

多面的機能支払の実施に関する基本方針(要綱基本方針)

1. 活動の推進に関する基本的考え方

本県では、過疎化・高齢化・混住化等に伴う集落機能の低下により、農地・農業用水等の保全管理が困難となっている状況や農村の自然環境や景観の保全・形成等の多面的機能への県民の要請を踏まえ、農業生産の基盤となる農地、農業用水等の資源の保全活動の推進、地域住民の共同による集落機能の維持、農村環境の向上に向けた活動を推進することとしている。

このような中、平成 26 年度から地域共同による農地・農業用水等の資源の保全管理と農村環境の保全のための活動に対し支援を行い、農地周りの農業用排水路等の老朽化への対応や集落機能の維持向上による多面的機能の維持・発揮の観点から、地域主体の保全管理の活動の強化が重要となっている。

このため、地域共同による農地・農業用水等の資源や農村環境の保全活動に加え、農地周りの農業用排水路等の施設の長寿命化や水質・土壌等の高度な保全のための活動に対し多面的機能支払により支援する。

2. 農地維持支払交付金に関する事項

(1) 地域活動指針の策定及び同指針に基づき定める要件の設定

① 地域活動指針策定における基本的考え方

多面的機能支払交付金実施要領別記 1－2 国が定める活動指針及び活動要件を基礎とする。

なお、本県では集落の合意の下に活動し、安全な活動に努めることとする。

ただし、対象活動に要する経費の支出は、次に掲げるものを除くものとする。

- ア 個人施設の改修・整備等、直接的な受益（効果）が個別の農家に限られるものへの助成
- イ 農業生産資材の購入経費等個別の農家が個々に負担すべき経費（人件費を含む）への助成
- ウ 対象活動に直接関係のない経費（人件費を含む）

② 地域活動指針に基づき定める要件設定の基本的考え方

ア 地域資源の基礎的保全活動

地域活動指針の基礎活動の全ての活動項目を実施する。ただし、活動の対象となる施設が存在しない活動項目は、除外する。

イ 地域資源の適切な保全管理のための推進活動

地域活動指針の地域資源の適切な保全管理のための推進活動について、取り組むテーマを 1 以上定め毎年実施し、活動期間中に地域資源保全管理構想を策定する。

ただし、農業経営基盤強化促進法第 19 条第 1 項に定める地域計画において、地域資源保全管理構想に準ずる内容が含まれる場合は、地域資源保全管理構想を作成したとみなすことができる。

③ 国が定める活動指針及び活動要件に追加する事項等

ア 地域資源の基礎的保全活動

区分	活動内容の追加
活動区分	実践活動
対象施設等	農用地
活動項目	6. 鳥獣害防護柵等の保守管理
活動内容	鳥獣害防護柵の適正管理 鳥獣被害防止のための防護柵の下草刈り、簡易補修、害虫駆除等による適正な管理を行うこと。
活動要件	－

区分	活動内容の追加
活動区分	実践活動
対象施設等	農用地
活動項目	6. 鳥獣害防護柵等の保守管理
活動内容	<u>農用地進入路の適正管理</u> <u>農道と農地を継ぐ進入路の下草刈りや簡易補修等による適正な管理を行うこと。</u>
活動要件	－
区分	活動内容の追加
活動区分	実践活動
対象施設等	農用地
活動項目	6. 鳥獣害防護柵等の保守管理
活動内容	<u>牧柵等の適正管理</u> <u>牧柵等の下草刈りや簡易補修等による適正な管理を行うこと。</u>
活動要件	－
区分	活動内容の追加
活動区分	実践活動
対象施設等	水路（開水路・パイプライン）
活動項目	9. 水路附帯施設の保守管理
活動内容	<u>安全施設の適正管理</u> <u>転落事故等を防止するために設置している安全施設の簡易補修等の対策を行う等適正な管理を行うこと。</u>
活動要件	－
区分	活動内容の追加
活動区分	実践活動
対象施設等	農道
活動項目	12. 路面の維持
活動内容	<u>安全施設の適正管理</u> <u>活動計画書に位置付けた農道への砂利の補充を行う等、通行の障害となる程度の路面の凹凸をなくすようにすること。</u> <u>農業用施設周りの転落防止柵等、安全施設の簡易補修等の対策を行う等適正な管理を行うこと。</u>
活動要件	－
区分	活動内容の追加
活動区分	実践活動
対象施設等	ため池
活動項目	14. ため池の泥上げ
活動内容	<u>ため池の貯水量を確保するため、かんがい期の終了後に落水（池干し）し、堆積土砂等の撤去を行う。</u>
活動要件	－
区分	活動内容の追加
活動区分	実践活動
対象施設等	ため池
活動項目	15. ため池附帯施設の保守管理
活動内容	<u>安全施設の適正管理</u> <u>農業用施設周りの転落防止柵等、安全施設の簡易補修等の対策を行う等適正な管理を行うこと。</u>
活動要件	－

区分	活動内容の追加
活動区分	実践活動
対象施設等	農用地、水路、農道
活動項目	100-1 除排雪（農用地）100-2 除排雪（水路）100-3 除排雪（農道）
活動内容	施設の適正な維持管理のため、施設や施設を管理するための通路の除排雪を行うこと。
活動要件	—

（注）区分には、「活動項目の追加」又は「活動内容の追加」のうち該当するものを記載する。なお、「活動内容の追加」については、追加箇所に下線を記載する。

イ 地域資源の適切な保全管理のための推進活動
特になし

④ 農地維持支払交付金に関する地域活動指針及び同指針に基づき定める要件（別紙1）

本県の農地維持支払交付金に関する地域活動指針及び同指針に基づき定める要件は、別紙1のとおりとする。

（2） 交付単価

① 基本的考え方

本県の農地維持支払交付金については、農業者等による組織が取り組む水路や農道等の地域資源の基礎的保全活動や適切な保全管理のための推進活動等を支援するものとし、下表②のとおりとする。

なお、事業計画期間中に地目変更する場合は、当該期間中に限り、農地維持の交付単価は従前の単価を適用するものとする。

② 農地維持支払交付金の交付単価

適用	地目	農地維持支払交付金の 10 アール当たりの交付単価	左記のうち国の助成
基本 単価	田	3,000円	1,500円
	畑	2,000円	1,000円
	草地	250円	125円

（3） 交付金の算定の対象とする農用地

農振農用地区域内の農用地及び多面的機能の発揮の観点から農振農用地区域内の農用地と一体的な維持が必要なその他の農用地及び農振農用地区域内の農用地と隣接する雑種地法等。

（4） その他必要な事項

特になし

3. 資源向上支払交付金（地域資源の質的向上を図る共同活動）に関する事項

（1） 地域活動指針の策定、同指針に基づき定める要件の設定

① 地域活動指針策定における基本的考え方

多面的機能支払交付金実施要領別記1-2国が定める活動指針及び活動要件を基礎とする。

なお、本県では集落の合意の下に活動し、安全な活動に努めることとする。

ただし、対象活動に要する経費の支出は、次に掲げるものを除くものとする。

ア 個人施設の改修・整備等、直接的な受益（効果）が個別の農家に限られるものへの助成

イ 農業生産資材の購入経費等個別の農家が個々に負担すべき経費（人件費を含む）への助成

ウ 対象活動に直接関係のない経費（人件費を含む）

② 地域活動指針に基づき定める要件設定の基本的考え方

ア 施設の軽微な補修

地域活動指針の基礎活動のすべての活動項目を実施する。ただし、活動の対象となる施設が存在しない活動項目は、除外する。

イ 農村環境保全活動

地域活動指針の農村環境保全活動について、取り組むテーマを1以上定めた上で、そのテーマに該当する計画策定、啓発・普及及び実践活動のそれぞれの活動項目を1以上実施する。

ウ 多面的機能の増進を図る活動

任意の取り組みとし、地域活動指針の多面的機能の増進を図る活動について、取り組むテーマを1以上定めた上で毎年度実施する。

③ 国が定める活動指針及び活動要件に追加する事項等

ア 施設の軽微な補修

区分	活動内容の追加
活動区分	機能診断・計画策定
対象施設等	農用地
活動項目	24. 農用地の機能診断
活動内容	<u>施設の機能診断</u> 活動計画書に位置づけたすべての施設の劣化状況等を早期に発見し、「実践活動」に位置づけた予防保全活動を適期に実施できるように畦畔、農用地法面、鳥獣害防護柵、防風ネット、 <u>農用地進入路等</u> の状況確認を行うこと。
活動要件	—
区分	活動内容の追加
活動区分	実践活動
対象施設等	農用地
活動項目	30. 農用地の軽微な補修等①畦畔・農用地法面等
活動内容	<u>農用地法面の初期補修</u> 降雨等による影響等で農用地法面等に侵食や湧水が発見された場合、補修、補強等の対策を行うこと。
活動要件	—
区分	活動内容の追加
活動区分	実践活動
対象施設等	農用地
活動項目	30. 農用地の軽微な補修等②施設
活動内容	<u>鳥獣害防護柵の補修・設置</u> <u>遊休農地再発防止を目的とした、鳥獣被害防止のための防護柵の補修や設置等</u> を行うこと。
活動要件	—
区分	活動内容の追加
活動区分	実践活動
対象施設等	農用地
活動項目	30. 農用地の軽微な補修等②施設
活動内容	<u>農用地進入路の補修・再構築</u> <u>農道と農地を継ぐ進入路の補修・修繕を行うこと。また、使用する農業用機械等に応じて農用地進入路を再構築すること。</u>
活動要件	—

区分	活動内容の追加
活動区分	実践活動
対象施設等	農用地
活動項目	30. 農用地の軽微な補修等②施設
活動内容	<u>牧柵等の補修・設置</u> <u>牧柵等の補修を行うこと。又は新たに牧柵等を設置すること。</u>
活動要件	－
区分	活動内容の追加
活動区分	実践活動
対象施設等	農用地
活動項目	30. 農用地の軽微な補修等②施設
活動内容	<u>固定式散水施設の補修</u> <u>老朽化等により散水機能に支障が生じている固定式散水施設の補修を行うこと。</u>
活動要件	－
区分	活動内容の追加
活動区分	実践活動
対象施設等	水路
活動項目	31. 水路の軽微な補修等①水路
活動内容	<u>パイプラインの破損施設の補修</u> <u>パイプラインの破損箇所や老朽化した箇所の補修等の対策を行うこと。</u>
活動要件	－
区分	活動内容の追加
活動区分	実践活動
対象施設等	水路
活動項目	31. 水路の軽微な補修等②附帯施設
活動内容	<u>安全施設の補修・設置</u> <u>転落事故等を防止するために設置している安全施設の破損・老朽箇所の補修を行うこと。また、必要に応じて、蓋・柵・警告板等を設置し地域の安全を確保すること。</u>
活動要件	－
区分	活動内容の追加
活動区分	実践活動
対象施設等	農道
活動項目	32. 農道の軽微な補修等②附帯施設
活動内容	<u>安全施設の補修・設置</u> <u>農業用施設周りの転落防止柵等、安全施設について劣化等による障害が発生している場合、補修・補強等の対策を行うこと。また、必要に応じて、安全施設を設置し地域の安全を確保すること。なお、ガードレールの新設は対象外とする。</u>
活動要件	－
区分	活動内容の追加
活動区分	実践活動
対象施設等	ため池
活動項目	33. ため池の軽微な補修等②附帯施設
活動内容	<u>安全施設の補修・設置</u> <u>農業用施設周りの転落防止柵等、安全施設について劣化等による障害が発生している場合、補修・補強等の対策を行うこと。また、必要に応じて、安全施設</u>

	<u>を設置し地域の安全を確保すること。なお、ガードレールの新設は対象外とする。</u>
活動要件	—
区分	活動内容の追加
活動区分	実践活動
対象施設等	農用地
活動項目	30. 農用地の軽微な補修等①畦畔・農用地法面等
活動内容	<u>鳥獣害防護用のわなの補修・設置</u> <u>鳥獣害防止のためのわなの補修や設置等を行うこと。</u> <u>ただし、わなの設置については狩猟免許や捕獲許可が必要であるため注意すること。</u> <u>なお、鳥獣に関する他事業等と重複しないこと。</u>
活動要件	—

(注) 区分には、「活動内容の追加」のうち該当するものを記載する。なお、「活動内容の追加」については、追加箇所に下線を記載する。

イ 農村環境保全活動

区分	活動内容の追加
活動区分	実践活動
テーマ	景観形成・生活環境保全
活動項目	45. 植栽等の景観形成活動
活動内容	<u>景観形成のための施設への植栽等</u> <u>農用地（畦畔、防風林含む）、水路、ため池、農道（路肩含む）、農村公園、親水広場、伝統的農業施設、農産物加工施設等</u> を活用して <u>農村景観を良くするために、花壇、植生土のうの設置や景観植物の植栽を行うとともに、ゴミの除去等による適正な維持管理を行うこと。</u> なお、植栽等に当たっては、必要に応じて有識者の指導・助言を得るなど、地域の生態系への影響に留意すること。
活動要件	—
区分	活動内容の追加
活動区分	実践活動
テーマ	水質保全
活動項目	44. その他（水質保全）
活動内容	<u>水田からの排水（濁水）管理</u> <u>水田からの濁水流出防止を図るために濁水をほ場内に滞留させ浮遊（懸濁）物質の沈殿が図られるように、用水の節水管理など適切な維持管理を行うこと。</u>
活動要件	<u>この取り組みは毎年度、排水（濁水）管理の取組を実施し、事業実施期間最終年度、または再認定を受ける場合は実施から5年後の遅い時期に資源向上活動（共同）の交付農用地の面積（田）の1/2以上で実施すること。</u>
区分	活動内容の追加
活動区分	実践活動
テーマ	水田貯留機能増進・地下水かん養
活動項目	48. 水田の貯留機能向上活動
活動内容	大雨時の水田での貯留効果を向上させるため、畦畔の嵩上げ、 <u>補修や補強等</u> を行うこと。ただし、前述の排水調節の活動を行う場合に限る。
活動要件	—

(注) 区分には、「活動内容の追加」のうち該当するものを記載する。なお、「活動内容の追加」に

については、追加箇所の下線を記載する。

ウ 多面的機能の増進を図る活動

区分	活動内容の追加
活動区分	多面的機能の増進を図る活動
活動項目	5 5. 防災・減災力の強化
活動内容	水田やため池の雨水貯留機能の活用、危険ため池の管理体制の整備・強化、災害時における応急体制の整備等、地域が一体となった防災・減災力の強化のための活動を行うこと。 <u>なお、危険ため池を共同活動の対象施設に位置付けている場合は、地域が一体となった防災・減災力の強化のための活動を積極的に行うこと。</u>
活動要件	—
区分	活動内容の追加
活動区分	多面的機能の増進を図る活動
活動項目	5 6. 農村環境保全活動の幅広い展開
活動内容	高度な保全活動 農地の保全 ため池利用による洪水調整 <u>下流域の農用地等の洪水被害や土砂流出被害の軽減を図るために、ため池又は沈砂池において浚渫すべき土砂量を事前に把握し、堤体等の安定性が損なわれないよう浚渫を行うこと。</u>
活動要件	—

(注) 区分には、「活動内容の追加」のうち該当するものを記載する。なお、「活動内容の追加」については、追加箇所の下線を記載する。

④ 地域活動指針及び同指針に基づき定める要件（別紙 2）

本県の資源向上支払交付金（地域資源の質的向上を図る共同活動（以下「共同」という。））に関する地域活動指針及び同指針に基づき定める要件は、別紙 2 のとおりとする。

⑤ 水田貯留機能強化計画の策定について

市町村長は、対象組織が（2）③ウの活動を実施する場合には、県知事と協議の上、水田貯留機能強化計画を策定する。なお、流域治水プロジェクトの計画に位置付けた場合は策定を不要とする。

（2） 交付単価

① 基本的考え方

本県の資源向上支払交付金（共同）の交付単価については、下表②のとおりとする。ただし、地域共同による農地・農業用水等の資源の保全管理活動が定着してきたことを踏まえ、継続地区（農地・水・環境保全向上対策及び農地・水保全管理支払交付金の共同活動及び多面的機能支払交付金の資源向上活動（共同）を 5 年間以上実施した農地）又は実施期間が 5 年未満であっても、資源向上支払交付金（施設の長寿命化のための活動）に取り組む地域については、基本単価の 7.5 割とする。

なお、地域活動のうち（（1）の③の）ウの多面的機能の増進を図る活動に取り組まない地域においては、更に 5 / 6 の単価とする。

また、平成 29 年度以降に、新たに多面的機能の増進を図る活動に取り組む地域は、従来の増進活動を 1 つ以上実施するとともに、広報活動・農村関係人口の拡大を実施するものとする。ただし、対象農用地が、地域振興立法 3 法（過疎地域、振興山村地域、特定農山村地域）に指定されている地域又は農林統計に用いる農業地域類型区分の中間農業地域、山間農業地域に含まれる場合は、除くものとする。

② 資源向上支払交付金（共同）の交付単価

適用	地目	資源向上支払交付金 (共同) の 10 アール当たりの交付単価	左記のうち国の助成
基本単価 (共同活動を実施して5ヵ年経過していない対象農用地)	田	2, 4 0 0 円	1, 2 0 0 円
	畑	1, 4 4 0 円	7 2 0 円
	草地	2 4 0 円	1 2 0 円
継続地区の 交付単価 (共同活動を5 年間以上実施した農用地及び資源向上活動(長寿命化)の対象農用地)	田	1, 8 0 0 円	9 0 0 円
	畑	1, 0 8 0 円	5 4 0 円
	草地	1 8 0 円	9 0 円

③ 加算単価

ア 多面的機能の更なる増進に向けた活動への支援

多面的機能の増進を図る活動に取り組んでいる組織が、事業計画に定める活動期間中に、農村振興局長が別に定める多面的機能の増進を図る活動の活動項目から新たに活動項目を選択し、1活動項目以上追加する場合又は新たに設立する組織及び多面的機能の増進を図る活動に取り組んでいない組織が、事業計画に定める活動期間中に農村振興局長が別に定める多面的機能の増進を図る活動の活動項目(ただし、広報活動・農村関係人口の拡大を除く。)から2活動項目以上選択して取り組む場合に、当該活動期間中に限り加算できる交付単価は、次に掲げる表中の欄に定めるとおりとする。

適用	地目	資源向上支払交付金 (共同) の 10 アール当たりの交付単価	左記のうち国の助成
加算単価	田	4 0 0 円	2 0 0 円
	畑	2 4 0 円	1 2 0 円
	草地	4 0 円	2 0 円

イ 農村協働力の深化に向けた活動への支援

アの支援を受ける組織であって、次の(a)又は(b)のいずれかに該当する活動を令和5年度に行っている場合に、同年度を含む当該活動期間中に限りアの表中の単価に更に加算できる交付単価は、次に掲げる表中の欄に定めるとおりとする。

- (a) 農業者以外のものが構成員のうち4割以上を占め、かつ、当該対象組織の活動に参加する個人及び団体の構成員の合計のうち8割以上が参加する実践活動を毎年度行う場合
- (b) 農業者以外の者が構成員のうち4割以上を占め、かつ、役員に女性が2名以上選任されている場合で、当該対象組織の活動に参加する個人及び団体の構成員の合計のうち6割以上が参加する実践活動を毎年度2種以上それぞれ別の日に行う場合

適用	地目	資源向上支払交付金 (共同) の 10 アール当たりの交付単価	左記のうち国の助成
----	----	------------------------------------	-----------

加算単価	田	400円	200円
	畑	240円	120円
	草地	40円	20円

ウ 水田の雨水貯留機能の強化（田んぼダム）を推進する活動への支援

事業計画に定める活動期間中に、次の(a)又は(b)のいずれかに該当する活動を行う場合に加算できる交付単価は、次に掲げる表中の欄に定めるとおりとする。

- (a) 資源向上支払（共同）の交付を受ける田面積全体のうち5割以上において、田の雨水貯留機能の強化を目的として、大雨時の水田からの排水を調節するため、水田の落水口に排水調整板の設置等を行う場合（加算対象面積は当該活動を実施する活動組織の対象農用地面積のうち田面積全体とする）
- (b) 広域活動組織にあっては、当該活動を実施する集落ごとに、資源向上支払（共同）の交付を受ける集落内の田面積全体のうち5割以上において、田の雨水貯留機能の強化を目的として、大雨時の水田からの排水を調節するため、水田の落水口に排水調整板の設置等を行う場合（加算対象面積は当該活動を実施する各集落の対象農用地面積のうち田面積全体の合計とする）

適用	地目	資源向上支払交付金（共同） の10アール当たりの交付単価	左記のうち国の助成
加算単価	田	400円	200円

エ 環境負荷低減の取組への支援

事業計画に定める活動期間中に、次の(a)から(e)までのいずれかに該当する活動を行い、取組ごとに2年目以降の取組面積が初年度の取組面積を下回らず、終了年度の取組面積が初年度の取組面積を上回る場合に加算できる交付単価は、次に掲げる表中の欄に定めるとおりとする。

- (a) 化学肥料及び化学合成農薬の使用を地域の慣行から原則として5割以上低減する取組（以下「5割低減の取組」という。）と長期中干しを組み合わせた取組
- (b) 5割低減の取組と冬期湛水を組み合わせた取組
- (c) 5割低減の取組と夏期湛水を組み合わせた取組
- (d) 5割低減の取組と中干し延期を組み合わせた取組
- (e) 5割低減の取組と江の設置等を組み合わせた取組

区分	環境負荷低減の取組の 10アール当たりの交付単価	左記のうち国の助成
長期中干し	800円	400円
冬期湛水	4,000円	2,000円
夏期湛水	8,000円	4,000円
中干し延期	3,000円	1,500円
江の設置等 (作溝実施)	4,000円	2,000円
江の設置等 (作溝未実施)	3,000円	1,500円

(3) 交付金の算定の対象とする農用地

農振農用地区域内の農用地及び多面的機能の発揮の観点から農振農用地区域内の農用地と一体的な維持が必要なその他の農用地及び農振農用地区域内の農用地と隣接する雑種地法面等、又は特定事業実施者が3の(2)の③のエの活動を実施する農用地。

(4) その他必要な事項

特になし

4. 資源向上支払交付金(施設の長寿命化のための活動)に関する事項

(1) 地域活動指針に基づき定める対象施設や対象活動等

① 基本的考え方

集落が管理する農地周りの水路、農道、ため池(防災・減災地域共同活動支払交付金交付等要綱別紙2第1の3(4)により読み替える場合においては排水路のみ)を対象とし、これら施設の長寿命化のための補修又は更新等を活動の対象とし、かつ安全な活動に努めることとする。

本県では、集落の合意の下に行う農地に係る施設である給水(取水)、排水、暗渠排水等の補修又は更新等を活動の対象とする。なお、農地に係る活動については、集落が管理する水路、農道等の施設の長寿命化のための活動(以下「長寿命化」という。)が図られたことを原則に、交付金の範囲内で活動の対象と出来ることとする。(防災・減災地域共同活動支払交付金交付等要綱別紙2第1の3(4)により読み替える場合を除く。)

また、流域治水対策(田んぼダムやため池の事前放流)に取り組む農地及びため池を防災施設として位置付ける。

ただし、対象活動に要する経費の支出は、次に掲げるものを除くものとする。

ア 個人施設の改修・整備等、直接的な受益(効果)が個別の農家に限られるものへの助成

イ 農業生産資材の購入経費等個別の農家が個々に負担すべき経費(人件費を含む)への助成

ウ 対象活動に直接関係のない経費(人件費を含む)

② 地域の状況に応じて追加する農地に係る施設や対象活動

区分	対象施設		対象活動		
			分類	活動項目	活動内容
取組内容の追加	集落が管理する施設	水路(開水路)(パイプライン)	更新等	水路の更新(一路線全体)	老朽化や不同沈下等による通水機能への支障が路線全体を通じて生じている場合、水路の路線全体の更新による対策を行うこと。
				水路の更新(パイプライン化)	老朽化や不同沈下等により通水機能に支障が生じている場合、支障が生じている水路をパイプラインに更新する。
				水路の更新(コルゲート水路等の布設)	老朽化や不同沈下等により通水機能に支障が生じている場合、支障が生じている水路をコルゲート等の布設により更新する。
				水路の更新(安全施設の設置)	水路内への転落防止や危険区域内への立入り防止等のために、新たに転落防止柵や水路蓋等の安全施設を設置することによる対策を行うこと。
			補修	集水枡、分水枡の補修	集水枡、分水枡、水路に付帯する水田への取水施設の破損箇所や老朽化した箇所の補修や部分的更新等の対策を行うこと。
				ゲート、ポンプ、樋門の補修	ゲート、ポンプ、樋門等の取水施設の破損や老朽化した箇所の補修等の対策を行うこと。

			更新等	ゲート、ポンプ、 <u>樋門の更新</u>	老朽化等により機能に支障が生じているゲート、ポンプ、 <u>樋門等の取水施設の更新等の対策を行うこと。</u>
			補修	農道路肩、農道法面の補修	<u>路面の凸凹、轍、ひび割れや部分的な欠損、ブロック積み、石積み等の通行機能を確保するための擁壁の損傷等、農道が損傷している場合、当該箇所状況に応じた工法による補修等の対策を行うこと。</u>
			更新等	未舗装道路を舗装（砂利、コンクリート、アスファルト）	未舗装道路において、路面の窪み、水たまり、ぬかるみ等により農道の維持管理等に支障が生じている場合、新たに路面を舗装することによる対策を行うこと。
			補修	農道側溝の補修	ひび割れや部分的な欠損、側壁の倒壊といった破損や目地の劣化、コンクリート表面の摩耗、ひび割れ、はく離等といった老朽化により <u>通水機能の低下が生じている場合、当該箇所状況に応じた工法による補修等の対策を行うこと。</u>
			更新等	側溝蓋の設置	農道において、側溝に蓋がないために車両通行時に脱輪したり、農業機械の移動や作業等に伴って側溝を傷付ける恐れがある場合、当該箇所に新たな <u>鋼製・コンクリート製の蓋を設置することにより対策を行うこと。</u>
		ため池	補修	洗掘箇所の補修	ため池において、堤体が洗掘されている場合、土のうを積んで補修する等の対策を行うこと。 <u>また、洗掘防止のためのブロック、シート等についても、機能保全のための補修を行うこと。</u> <u>張ブロック、護岸ブロック、シート等によるため池法面の侵食防止施設について、機能低下に対応した補修を行うこと。</u>
	項目の追加	水路（開水路）（パイプライン）	補修	<u>空気弁・制水弁の補修</u>	<u>パイプラインにおける老朽化した空気弁や制水弁の機能回復のための補修等の対策を行うこと。</u>
				<u>水路蓋の補修</u>	<u>鋼製・コンクリート製の水路蓋が老朽化することで通水機能や、維持管理に支障が生じている場合、適切な補修工法による補修対策を行うこと。</u>
			更新等	<u>空気弁・制水弁の更新</u>	<u>パイプラインにおける老朽化した空気弁や制水弁の更新を行うこと。</u>
				<u>水路蓋の更新</u>	<u>水路の通水機能や、維持管理に支障が生じている場合、鋼製・コンクリート製の水路蓋を設置するなど適切な工法による対策を行うこと。</u>
	農地に係る施設	排水施設	補修	暗渠排水施設の補修	排水機能が低下している暗渠排水施設の機能回復のための補修を行うこと。
		給水施設		給水施設の補修	給水機能が低下している給水施設及び取水口等の機能回復のための補修を行うこと。

		進入路施設		進入施設の補修	進入機能が低下している進入路等の機能回復のための補修を行うこと。
		鳥獣害対策施設		鳥獣害対策施設の補修	カラス、イノシシ、サル、シカ、タヌキ等によって発生する農作物被害の未然防止のための鳥獣害対策施設の機能低下を改善するため補修を行うこと。
		散水施設		固定式散水施設の補修	固定式散水施設等の破損箇所や老朽化した箇所の補修を行うこと。
		排水施設	更新等	暗渠排水施設の更新等	排水機能が低下している暗渠排水施設の更新を行うこと。
		給水施設		給水施設の更新等	給水機能が低下している給水施設及び取水口等の更新を行うこと。
		進入路施設		進入施設の更新等	進入機能が低下している進入路等の更新を行うこと。
		客土		客土等	作土不足等による遊休農地化を未然に防止するための客土等を行うこと。
		散水施設		固定式散水施設の更新等	固定式散水施設等の破損箇所や老朽化した箇所の更新を行うこと。
	防災施設	農地・ため池	更新等	農地の畦畔、ため池の法面や洪水吐等の更新等	流域治水対策（田んぼダムやため池の事前放流）に取り組むために必要な農地の畦畔、ため池の法面や洪水吐等の補強、更新及び補修を行うこと。

（注）区分には、「活動項目の追加」又は「活動内容の追加」のうち該当するものを記載する。なお、「活動内容の追加」については、追加箇所に下線を記載する。

③ 対象施設・対象活動に関する指針（別紙３）

本県の資源向上支払交付金（長寿命化）の対象施設・対象活動に関する指針は、別紙３のとおりとする。

なお、防災・減災地域共同活動支払交付金交付等要綱別紙２第１の３（４）により読み替える場合においては活動項目６１、６２、１０１、１０２、１１１のみ対象とする。ただし、活動項目１０１、１０２、１１１は排水路の防災・減災のための活動を行った上で、本交付金の範囲の中で実施することができる。

（２） 交付単価・交付金額

① 基本的考え方

本県の資源向上支払交付金（長寿命化）の交付金の上限額は、下表②の交付単価の欄に定める単価（直営施工を実施しない対象組織にあつては、当該単価に５／６を乗じて得た額）をそれぞれ該当する対象農用地の面積に乗じて得た金額に相当する金額の合計とする。ただし、令和６年度に資源向上活動（長寿命化）を行っている場合に、同年度を含む当該活動期間中に限り、対象組織への資源向上活動（長寿命化）に対する交付金の上限額は、事業計画に位置付けられている対象農用地について、下表②の交付単価の欄に定める単価（多面的機能支払実施要綱別紙５の第３に定める要件を満たさず、かつ直営施工を実施しない活動組織にあつては、当該単価に５／６を乗じて得た額）をそれぞれ該当する対象農用地の面積に乗じて得た金額に相当する金額の合計とする。

なお、多面的機能支払実施要綱別紙５の第３に定める要件を満たさない活動組織の場合は、当該金額又は保全管理する区域内に存在する集落数に２００万円を乗じて得た額のいずれか小さい額とする。

② 資源向上支払交付金（長寿命化）の交付単価

適用	地目	資源向上支払交付金（長寿命化） の 10 アール当たりの交付単価	左記のうち国の助成
基本単価	田	4, 4 0 0 円	2, 2 0 0 円
	畑	2, 0 0 0 円	1, 0 0 0 円
	草地	4 0 0 円	2 0 0 円

（３） 交付金の算定の対象とする農用地

農振農用地区域内の農用地、及び多面的機能の発揮の観点から農振農用地区域内の農用地と一体的な維持が必要なその他の農用地及び農振農用地区域内の農用地と隣接する雑種地法面等。

（４） その他必要な事項

① 工事 1 件当たりの費用

平成 31 年度（令和元年度）から交付金の効率的かつ効果的な執行の観点から原則として「工事 1 件当たりの費用は 200 万円未満」とする。

ただし、②で定める要件全てを満たす場合は、200 万円以上の活動についても実施可能とする。

② 工事 1 件当たり 200 万円以上の活動を実施する場合の要件

ア 長寿命化整備計画書を策定し、市町村の認定を受けること。

イ 長寿命化整備計画書作成の対象施設について、施設管理者（土地改良区等）との協議を行っていること。

ウ 市町村長は対象組織の代表者から提出された長寿命化整備計画書に記載されている施設について、他事業で実施しない合理的理由を整理し、知事に報告すること。

エ 資源向上活動（長寿命化）の本来の活動主旨及び目的に鑑み、大型機械等を用いた特殊工法や著しく現況以上の機能を付加するものについては、活動内容として認めないものとする。なお、市町村において判断することが困難な場合は、県と協議すること。

オ 工事の実施に際し、県または推進協議会からの技術的指導を受けること。

カ 盛土・切土等の施工（宅地造成及び特定盛土等規制法（昭和 36 年法律第 191 号）第 2 条第 2 号から第 4 号までに規定される「宅地又は農地等において行う盛土その他の土地の形質の変更及び土石の堆積に関する工事」をいう。）に当たっては、土地改良事業計画設計基準等に基づき、安全性の観点から適切に設計・施工を行わなければならない。

この場合において、土地改良事業計画設計基準等に基づき施工を行うことができないときは、宅地造成及び特定盛土等規制法の手続に従うものとする。

※防災・減災地域共同活動支払交付金交付等要綱別紙 2 第 1 の 3（４）により読み替える場合においては、既に長寿命化計画書を作成しており、実施に際して変更のない場合は、防災・減災地域共同活動支払交付金計画書は省略することができる。

5. 資源向上支払交付金（組織の広域化・体制強化）に関する事項

（１） 組織の広域化・体制強化に対する交付単価

① 平地

面積 (ha)	国・県の支援	国と一体的に地方公共団体が 交付する交付額 (5 か年)	左記のうち国の助成
0～50	単県	無し	無し
	国	無し	無し
50～100	単県	2 万円×5 年＝10 万円	無し

	国	無し	無し
100～150	単県	4 万円×5 年＝20 万円	無し
	国	無し	無し
150～200	単県	6 万円×5 年＝30 万円	無し
	国	無し	無し
200～1, 000	単県	無し	無し
	国	8 万円×5 年＝40 万円	4 万円×5 年＝20 万円
1, 000～	単県	無し	無し
	国	16 万円×5 年＝80 万円	8 万円×5 年＝40 万円

② 条件不利地

面積 (ha)	国・県 の支援	国と一体的に地方公共団体が 交付する交付額 (5 か年)	左記のうち国の助成
0～25	単県	1 万円×5 年＝5 万円	無し
	国	無し	無し
25～50	単県	2 万円×5 年＝10 万円	無し
	国	無し	無し
50～75	単県	無し	無し
	国	4 万円×5 年＝20 万円	2 万円×5 年＝10 万円
75～100	単県	1 万円×5 年＝5 万円	無し
	国	4 万円×5 年＝20 万円	2 万円×5 年＝10 万円
100～200	単県	2 万円×5 年＝10 万円	無し
	国	4 万円×5 年＝20 万円	2 万円×5 年＝10 万円
200～1, 000	単県	無し	無し
	国	8 万円×5 年＝40 万円	4 万円×5 年＝20 万円
1, 000～	単県	無し	無し
	国	16 万円×5 年＝80 万円	8 万円×5 年＝40 万円

③ 協定に参加する集落が 3 集落以上の範囲で協定の対象とする区域

国と一体的に地方公共団体が交付する交付額 (5 か年)	左記のうち国の助成
4 万円×5 年＝20 万円	2 万円×5 年＝10 万円

※上表①、②、③のうち、多面的機能支払交付金実施要綱別紙 2 第 6 の 2 (3) イにより国の助成を含むものは、令和 5 年度に助成を受けている組織に対して同年度を含む活動期間中に限り交付できるものとする。

- (2) 対象組織への組織の体制強化に対する支援として、多面的機能支払交付金実施要綱別紙 5 に定める広域活動組織を設立し、当該広域活動組織に複数の集落をまたいで共同活動を行う班（以下「活動支援班」という。）を設置する場合に交付できる交付額は、次に掲げる表中の欄に定めるとおりとする。

区分	1 組織当たり交付額	左記のうち国の助成
広域活動組織の設立及び 活動支援班の設置	4 0 万円	2 0 万円

6. 広域協定の規模

広域協定の対象とする区域が昭和 25 年 2 月 1 日時点の市区町村区域程度又は 200ha 以上、また

農業生産の条件不利地域（３法（過疎法、山村振興法、特定農山村法）地域及び中山間地域等直接支払制度の特認地域：以下「条件不利地域」という。）の要件を満たす場合、50ha 以上又は協定に参加する集落が３集落以上の規模を有していれば、広域活動組織として設立することができる。

7. 地域の推進体制

（１） 基本的な考え方

本交付金による活動の推進にあたっては、鳥取県、市町村、農業者団体、集落等の緊密な連携により、実施することが必要であることから、本県では、鳥取県、市町村、農業者団体等から構成する鳥取県農地・水・環境保全協議会を地域の推進体制に位置付けることとする。

（２） 関係団体の役割分担

① 鳥取県

- ・農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律（以下「法」という。）に基づく基本方針を策定する。
- ・農地維持支払交付金及び資源向上支払交付金の実施状況等の評価を行うため、第三者委員会を設置・運営する。
- ・鳥取県の多面的機能支払の実施に関する基本方針を策定する。
- ・毎年度、活動組織を対象とした説明会を開催し、本交付金の実施に必要な事項を周知する。
- ・資源向上活動（長寿命化）を実施する対象組織に対し技術的指導を行う。

② 市町村（別添：市町村一覧表参照）

- ・法に基づく促進計画を策定する。
- ・管内の活動組織の事業計画又は広域協定を認定する。
- ・原則として毎年度、活動組織を対象とした説明会を開催し、活動実施に必要な事項を周知する。
- ・活動組織に対して、事業計画又は広域協定に位置づけられた活動等に関する指導・助言を適宜行い、事業計画又は広域協定に位置づけられた活動等の適切な実施を図る。
- ・毎年度、活動組織の農地維持支払交付金及び資源向上支払交付金の実施を確認する。

③ 鳥取県農地・水・環境保全協議会（以下「推進組織」という。）

- ・事業計画又は広域協定の策定時において、活動組織に対して、適宜、指導・審査を行い、事業計画又は広域協定に位置づけられた活動等の適切な実施を図る。
- ・活動組織の事務手続きの支援等を行う組織の特定非営利法人化に対して、支援を行う。
- ・農地維持支払交付金及び資源向上支払交付金について、活動組織が市町村に提出した申請書等の審査を行う。
- ・県及び市町村の事務支援等を行う。
- ・農地維持支払交付金及び資源向上支払交付金の普及・推進を図るため、推進に関する手引きを作成する。
- ・資源向上活動（長寿命化）を実施する対象組織に対し技術的指導を行う。

（３） 市町村等への推進交付金の交付の方法

市町村への推進交付金については、国から本県に交付を受けた額のうち、市町村推進事業の実施に必要な経費を鳥取県交付要綱に従い、本県から市町村に交付するものとする。

また、推進組織への推進交付金については、国から本県に交付を受けた額のうち、推進組織推進事業の実施に必要な経費を鳥取県交付要綱に従い、本県から推進組織に交付するものとする。

（４） その他必要な事項

特になし。

8. その他

(1) 多面的機能支払交付金に係る役割分担

多面的機能支払交付金実施要綱（平成 26 年 4 月 1 日 25 農振第 2254 号農林水産事務次官依命通知。）に基づき平成 26 年度に交付された交付金の実績確認等については、多面的機能支払の実施に関する基本方針（平成 26 年 6 月 4 日付け中国四国農政局長同意。）に基づき実施する。

(2) 準広域活動組織

県独自の取り組みとして、多面的機能支払交付金実施要綱別紙 5 及び多面的機能支払実施要領第 4 に準じて設立された規模要件が 200ha 未満（条件不利地域にあつては 50ha 未満）の活動組織を準広域活動組織とすることができる。ただし、この場合の交付単価等については、多面的機能支払交付金実施要綱別紙 5 及び多面的機能支払実施要領第 4 に基づき設立された活動組織の取り扱いを適用しないものとする。

【参考添付資料】

（参考 1）関係団体の役割分担表

（参考 2）実施体制図

(参考1)

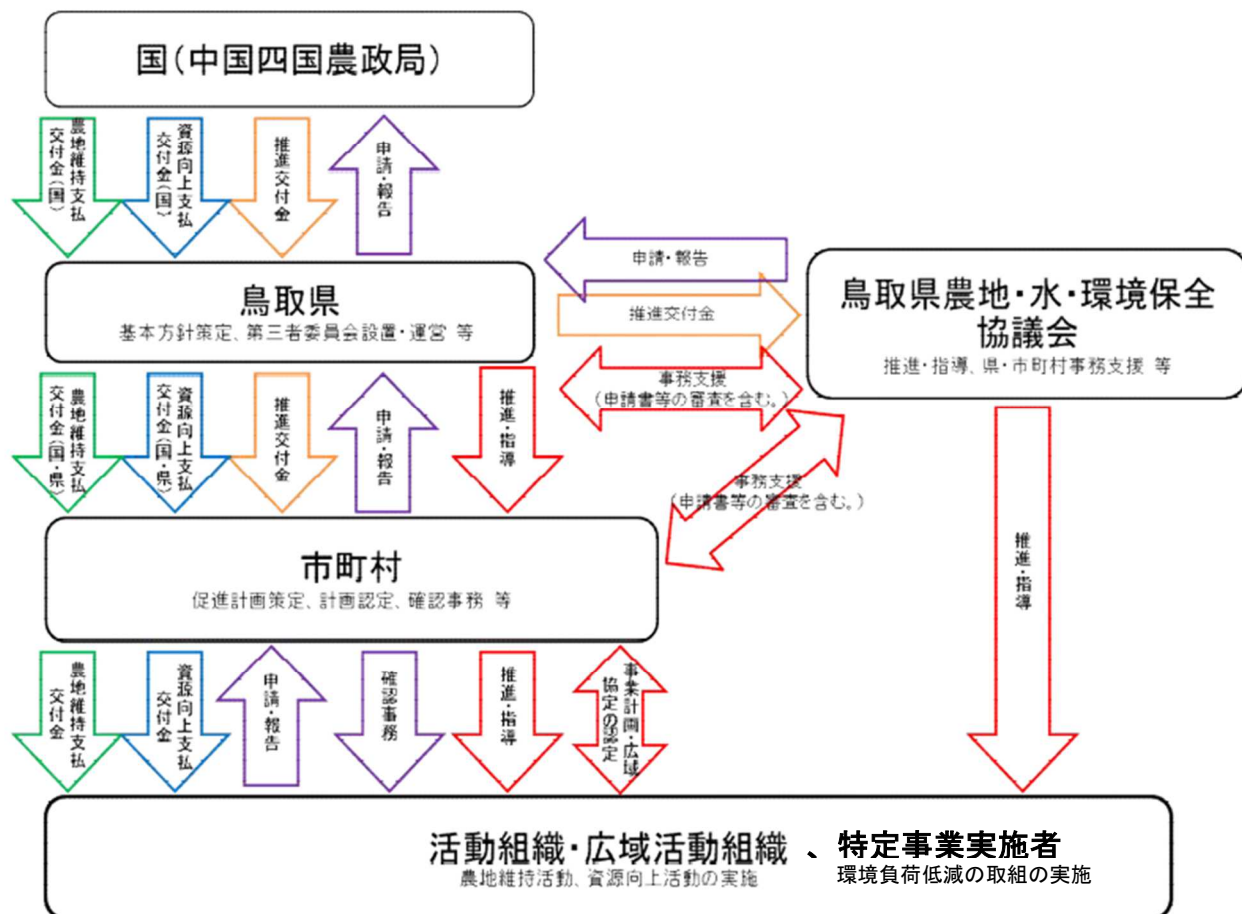
関係団体の役割分担表

事業内容	実施主体			備考
	鳥取県	関係市町村	推進組織	
多面的機能支払交付金	○	○		
多面的機能支払推進交付金				
1. 法基本方針の策定	○			
2. 推進計画の策定		○		
3. 第三者機関の設置、運営	○			
4. 要綱基本方針の策定	○			
5. (1) 事業計画の指導、審査		○	△	
(2) 事業計画の認定		○		
6. (1) 広域協定の指導、審査		○	△	
(2) 広域協定の認定		○		
7. (1) 実施状況確認		○	△	
(2) 実施状況報告		○		
8. 推進・指導				
(1) 活動組織等への説明会	○	○	△	
(2) 活動に関する指導、助言	○	○	○	
(3) 推進に関する手引きの作成			○	
(4) 活動組織を支援する組織への支援	○	○	△	
9. (1) 交付申請書等の審査	○	○	△	
(2) 通知・交付	○	○		
10. その他推進事業の実施に必要な事項	○	○	○	

△：事業内容を実施する実施主体を支援

(参考2)

実施体制図



市町村一覧

県管内	市町村名
東部農林事務所	鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町
中部総合事務所	倉吉市、三朝町、湯梨浜町、北栄町、琴浦町
西部総合事務所	米子市、境港市、日吉津村、伯耆町、南部町、大山町、日南町、日野町、江府町

(別紙 1)

農地維持支払交付金に関する地域活動指針及び同指針に基づき定める要件

第 1 活動指針及び活動要件

1 農地維持活動

(1) 地域資源の基礎的な保全活動

活動区分		活動項目	活動要件
点検・ 計画 策定	点検	1 点検	活動計画書に位置付けた農用地及び水路等の施設について、遊休農地の発生状況等の把握、泥の堆積状況等の点検を毎年度実施する。
	年度活動計画の策定	2 年度活動計画の策定	点検結果を踏まえて、実践活動に関する年度計画を毎年度策定する。
研修		3 事務・組織運営等に関する研修、機械の安全使用に関する研修	事務・組織運営等に関する研修、機械の安全使用に関する研修について、5 年間に各 1 回以上実施する。
実践 活動	農 用 地	4 遊休農地発生防止のための保全管理	活動計画書に位置付けた農用地及び水路等の施設について、遊休農地発生防止のための保全管理、畦畔・法面・防風林の草刈り等を毎年度実施する。 ただし、下線部の活動については、点検結果に基づき、必要となる活動項目を実施する。
		5 畦畔・法面・防風林の草刈り	
		6 鳥獣害防護柵等の保守管理	
		1 0 0 - 1 除排雪	
	水 路	7 水路の草刈り	
		8 水路の泥上げ	
		9 水路附帯施設の保守管理	
		1 0 0 - 2 除排雪	
	農 道	1 0 農道の草刈り	
		1 1 農道側溝の泥上げ	
		1 2 路面の維持・安全施設の適正管理	
		1 0 0 - 3 除排雪	
	た め 池	1 3 ため池の草刈り	
		1 4 ため池の泥上げ	
		1 5 ため池附帯施設の保守管理	
	共 通	1 6 異常気象時の対応	

(2) 地域資源の適切な保全管理のための推進活動

活動区分	活動項目	活動要件
地域資源の適切な保全管理のための推進活動	17 農業者（入り作農家、土地持ち非農家を含む）による検討会の開催	該当する活動項目を選択し、毎年度実施する。
	18 農業者に対する意向調査、農業者による現地調査	
	19 不在村地主との連絡体制の整備、調整、それに必要な調査	
	20 地域住民等（集落外の住民・組織等も含む）との意見交換・ワークショップ・交流会の開催	
	21 地域住民等に対する意向調査、地域住民等との集落内調査	
	22 有識者等による研修会、有識者を交えた検討会	
	23 その他（地域の実情に応じて対象組織が具体的に設定）	

第2 活動の説明

1 農地維持活動

(1) 地域資源の基礎的な保全活動

1) 点検・計画策定

ア 点検

1 点検

【農用地に関する活動内容】

□遊休農地等の発生状況の把握

- ・活動計画書に位置付けたすべての農用地について、遊休農地等の発生状況を把握すること。

【水路（開水路、パイプライン）に関する活動内容】

□施設の点検

- ・活動計画書に位置付けたすべての水路について、泥の堆積状況（ゴミの投棄状況含む）を確認すること。
- ・活動計画書に位置付けたすべてのパイプラインについて、ポンプ吸水槽等の泥の堆積状況（ゴミの投棄状況含む）を確認すること。
- ・かんがい期前に通水試験を実施し、通水状況を把握すること。

【農道に関する活動内容】

□施設の点検

- ・活動計画書に位置付けたすべての農道について、路面の凹凸の状況、側溝の泥の堆積状況（ゴミの投棄状況含む）を確認すること。

【ため池（管理道路含む）に関する活動内容】

□施設の点検

- ・活動計画書に位置付けたすべてのため池について、泥の堆積状況（ゴミの投棄状況含む）、管理道路の状況（側溝のゴミの投棄状況含む）を確認すること。
- ・ため池の水抜きを行い、ゲート等のため池付帯施設の点検を行うこと。

イ 計画の策定

2 年度活動計画の策定

- ・点検・機能診断結果を踏まえて、実践活動の当該年度の活動計画を策定すること。

2) 研修

3 事務・組織運営等に関する研修、機械の安全使用に関する研修

次の2つの研修について、5年間に各1回以上実施する。2つを合わせて実施することも可能とする。

- ・活動の円滑な実施が図られるように、活動に関する事務（書類作成、申請手続き等）や組織の運営に関する研修を行うこと。
- ・共同作業で使用する機械又は使用頻度が高い機械（刈払機など）について、安全使用に関する研修、講習等を開催又はそれに参加すること。

3) 実践活動

ア 農用地に関する活動内容

4 遊休農地発生防止のための保全管理

- ・農用地の草刈り等や害虫駆除を適正に行い、耕作可能な状態に農用地を保全管理すること。なお、既遊休農地については、協定期間内に遊休農地を解消すること。

5 畦畔・法面・防風林の草刈り

□畦畔・農用地法面等の草刈り

- ・ほ場内の作業性の確保、病害虫発生低減等のために、活動計画書に位置付けた畦畔・農用地法面やその周辺部の草刈り又は除草を行い、農業生産への障害が生じないようにすること。この際には、草刈り又は除草活動後の草を適正に処理し、刈り取った場所に

放置しないこと。又は、その場に存置する場合にあっては、農業生産・生活環境への支障が生じないようにすること。

□防風林の枝払い・下草の草刈り

・ほ場隣接の防風林やその周辺部の枝払い、草刈り又は除草等の作業により、適正な管理を行うこと。この際には、枝払いや草刈り又は除草活動後の草等を適正に処理し、刈り取った場所に放置しないこと。又は、その場に存置する場合にあっては農業生産・生活環境への支障が生じないようにすること。

6 鳥獣害防護柵等の保守管理

□鳥獣害防護柵の適正管理

・鳥獣被害防止のための防護柵の下草刈り、簡易補修、害虫駆除等による適正な管理を行うこと。

□防風ネットの適正管理

・防風ネットの下草刈りや簡易補修等による適正な管理を行うこと。

□農用地進入路の適正管理

・農道と農地を継ぐ進入路の下草刈りや簡易補修等による適正な管理を行うこと。

□牧柵等の適正管理

・牧柵等の下草刈りや簡易補修等による適正な管理を行うこと。

100-1 除排雪

・施設の適正な維持管理のため、施設や施設を管理するための通路の除排雪を行うこと。

イ 水路（開水路・パイプライン）に関する活動内容

7 水路の草刈り

□水路の草刈り

・通水機能の維持、病虫害発生低減等のために、活動計画書に位置付けた水路やその周辺部の草刈り又は除草を行い、通水機能等に障害が生じないようにすること。この際には、草刈り又は除草活動後の草を適正に処理し、刈り取った場所に放置しないこと。又は、その場に存置する場合にあっては、農業生産・生活環境への支障が生じないようにすること。

□ポンプ場、調整施設等の草刈り

・活動計画書に位置付けたポンプ場、調整施設、営農飲雑用水施設等のパイプライン附帯施設やその周辺部の草刈り又は除草を行い、農業生産等への障害が生じないようにすること。この際には、草刈り又は除草活動後の草を適正に処理し、刈り取った場所に放置しないこと。又は、その場に存置する場合にあっては、農業生産・生活環境への支障が生じないようにすること。

8 水路の泥上げ

□水路の泥上げ

- ・活動計画書に位置付けた水路の泥上げを実施し、通水機能に障害が生じないようにすること。この際には、泥上げした土砂を適正に処理し、その場所に放置しないこと。又は、その場に存置する場合にあつては、農業生産・生活環境への支障が生じないようにすること。

□ポンプ吸水槽等の泥上げ

- ・点検の結果、必要となる場合には、活動計画書に位置付けたポンプ吸水槽等の泥上げを実施し、施設機能に障害が生じないようにすること。この際には、泥上げした土砂を適正に処理し、その場所に放置しないこと。又は、その場に存置する場合にあつては、農業生産・生活環境への支障が生じないようにすること。

9 水路附帯施設の保守管理

□かんがい期前の注油

- ・活動計画書に位置付けた制水弁等への注油により、施設機能に障害が生じないようにすること。

□ゲート類等の保守管理

- ・腐食等により劣化しやすいゲート、水門、除塵機等の開水路付帯施設の長寿命化に資するため、非かんがい期の屋内保管・冬期間の防寒対策、塗料や被覆資材の再塗布、管理運転等のきめ細やかな保全管理を行うこと。

□遮光施設の適正管理

- ・アオコによる通水障害やかんがい施設の損傷等を防止するために設置している遮光施設の簡易補修等の対策を行う等適正な管理を行うこと。

□安全施設の適正管理

- ・転落事故等を防止するために設置している安全施設の簡易補修等の対策を行う等適正な管理を行うこと。

100-2 除排雪

- ・施設の適正な維持管理のため、施設や施設を管理するための通路の除排雪を行うこと。

ウ 農道に関する活動内容

10 農道の草刈り

- ・活動計画書に位置付けた農道の路肩・法面やその周辺部の草刈り、除草又は枝払いを行い、通行及び農業生産に障害が生じないようにすること。この際には、草刈り又は除草活動後の草を適正に処理し、刈り取った場所に

放置しないこと。又は、その場に存置する場合にあっては、農業生産・生活環境への支障が生じないようにすること。

1 1 農道側溝の泥上げ

- ・活動計画書に位置付けた農道側溝の泥上げを実施し、通水機能に障害が生じないようにすること。この際には、泥上げた土砂を適正に処理し、その場所に放置しないこと。又は、その場に存置する場合にあっては、農業生産・生活環境への支障が生じないようにすること。

1 2 路面の維持

□安全施設の適正管理

- ・活動計画書に位置付けた農道への砂利の補充を行う等、通行の障害となる程度の路面の凹凸をなくすようにすること。
- ・農業用施設周りの転落防止柵等、安全施設の簡易補修等の対策を行う等適正な管理を行うこと。

1 0 0 - 3 除排雪

- ・施設の適正な維持管理のため、施設や施設を管理するための通路の除排雪を行うこと。

エ ため池に関する活動内容

1 3 ため池の草刈り

- ・活動計画書に位置付けたため池やその周辺部の草刈り又は除草を行い、ため池の機能等に障害が生じないようにすること。この際には、草刈り又は除草活動後の草を適正に処理し、刈り取った場所に放置しないこと。又は、その場に存置する場合にあっては、ため池の機能及び農業生産・生活環境への支障が生じないようにすること。

1 4 ため池の泥上げ

- ・活動計画書に位置付けたため池の泥上げを実施し、ため池の貯水機能に障害が生じないようにすること。この際には、泥上げた土砂を適正に処理し、その場所に放置しないこと。又は、その場に存置する場合にあっては、農業生産・生活環境への支障が生じないようにすること。
- ・ため池の貯水量を確保するため、かんがい期の終了後に落水（池干し）し、堆積土砂等の撤去を行う。

1 5 ため池附帯施設の保守管理

□かんがい期前の施設の清掃・防塵

- ・活動計画書に位置付けたため池の施設について、清掃、除塵等の保守活動を行い、ため池の貯水及び配水等機能に障害が生じないようにすること。

□管理道路の管理

- ・活動計画書に位置付けたため池の管理道路を補修（草刈り、側溝の泥上げ、通行の障害となる程度の路面の凹凸の解消等）し、管理道路としての機能に障害が生じないようにすること。

□遮光施設の適正管理

- ・アオコによる通水障害やかんがい施設の損傷を防止するために設置している遮光施設の簡易補修等の対策を行う等適正な管理を行うこと。

□ゲート類の保守管理

- ・腐食等により劣化しやすいゲート類等のため池付帯施設の長寿命化に資するため、非かんがい期の屋内保管・冬期間の防寒対策、又は、塗料や被覆資材の再塗布等のきめ細やかな保全管理を行うこと。

□安全施設の適正管理

- ・農業用施設周りの転落防止柵等、安全施設の簡易補修等の対策を行う等適正な管理を行うこと。

オ 共通

1.6 異常気象時の対応

□異常気象後の見回り

- ・洪水、台風、地震、豪雪等の異常気象等が収まった後に、十分に安全を確認した上で、農用地（畦畔、排水口、法面等）、水路、地上部のパイプライン附帯施設（ポンプ場、調整施設等）、農道、ため池及び付帯施設の見回りを行い、施設状況を把握すること。

□異常気象後の応急措置

- ・異常気象等後の見回りの結果、農用地に障害が生じるような状況である場合、又は水路、農道及びため池に土砂や雑木等がみられたり、機能に障害が生じるような状況である場合、必要に応じて応急措置を行うこと。

（２）地域資源の適切な保全管理のための推進活動

構造変化に対応した保全管理の目標に基づいた以下の活動を行うこと。

- 1.7 農業者（入り作農家、土地持ち非農家を含む）による検討会の開催
- 1.8 農業者に対する意向調査、農業者による現地調査
- 1.9 不在村地主との連絡体制の整備、調整、それに必要な調査
- 2.0 地域住民等（集落外の住民・組織等も含む）との意見交換・ワークショップ・交流会の開催
- 2.1 地域住民等に対する意向調査、地域住民等との集落内調査

2 2 有識者等による研修会、有識者を交えた検討会の開催

2 3 その他（地域の実情に応じて対象組織が具体的に設定）

(別紙2)

資源向上支払交付金（地域資源の質的向上を図る共同活動）に関する地域活動指針
及び同指針に基づき定める要件

第1 活動指針及び活動要件

1 資源向上活動（地域資源の質的向上を図る共同活動）

(1) 施設の軽微な補修

活動区分		活動項目	活動要件
機能 診断・ 計画 策定	機能診断	2 4 農用地の機能診断	活動計画書に位置付けた農用地及び水路等の施設について、施設の機能診断、診断結果の記録管理を毎年度実施する。
		2 5 水路の機能診断	
		2 6 農道の機能診断	
		2 7 ため池の機能診断	
	計画策定	2 8 年度活動計画の策定	機能診断結果を踏まえて、実践活動に関する年度計画を毎年度策定する。
研修		2 9 機能診断・補修技術等に関する研修	機能診断・補修技術等に関する研修について、5年間に1回以上実施する。
実践 活動	農 用 地	<u>3 0 農用地の軽微な補修等</u>	活動計画書に位置付けた農用地及び水路等の施設について、農用地の軽微な補修等、必要な活動項目を毎年度実施する。 ただし、下線部の活動については、機能診断結果に応じて、必要となる活動項目を実施する。
	水 路	<u>3 1 水路の軽微な補修等</u>	
	農 道	<u>3 2 農道の軽微な補修等</u>	
	た め 池	<u>3 3 ため池の軽微な補修等</u>	

(2) 農村環境保全活動

	活動区分	活動項目	活動要件
	テーマ		
計画 策定	生態系保全	3 4 生物多様性保全計画の策定	選択したテーマについて、基本方針、保全方法、活動内容等を示した計画を毎年度策定する。
	水質保全	3 5 水質保全計画、農地環境保全計画の策定	
	景観形成・生活環境	3 6 景観形成計画、生活環境保全計画	

	保全	の策定	
	水田貯留機能増進・地下水かん養	3 7 水田貯留機能増進計画、地下水かん養活動計画の策定	
	資源循環	3 8 資源循環計画の策定	
実践活動	生態系保全	3 9 生物の生息状況の把握	選択したテーマに基づき、生態系保全を図るため、生物の生息状況の把握等の活動項目を毎年度1つ以上実施する。
		4 0 外来種の駆除	
		4 1 その他（生態系保全）	
	水質保全	4 2 水質モニタリングの実施・記録管理	選択したテーマに基づき、水質保全を図るため、水質モニタリングの実施・記録管理等の活動項目を毎年度1つ以上実施する。
		4 3 畑からの土砂流出対策	
		4 4 その他（水質保全）	
	景観形成・生活環境保全	4 5 植栽等の景観形成活動	選択したテーマに基づき、景観形成・生活環境保全を図るため、植栽等の景観形成活動等の活動項目を毎年度1つ以上実施する。
		4 6 施設等の定期的な巡回点検・清掃	
		4 7 その他（景観形成・生活環境保全）	
	水田貯留機能増進・地下水かん養	4 8 水田の貯留機能向上活動	選択したテーマに基づき、水田貯留機能増進・地下水かん養を図るため、水田の貯留機能向上活動等の活動項目を毎年度1つ以上実施する。
		4 9 水田の地下水かん養機能向上活動・水源かん養林の保全	
	資源循環	5 0 地域資源の活用・資源循環活動	選択したテーマに基づき、資源循環を図るため、地域資源の活用・資源循環活動を毎年度実施する。
啓発・普及		5 1 啓発・普及活動	選択したテーマに基づき、地域住民等の理解を深めるための啓発・普及活動を毎年度実施する。

（3）多面的機能の増進を図る活動

活動区分	活動項目	活動要件
------	------	------

多面的機能の増進を図る活動	5 2 遊休農地の有効活用	任意の実施とし、実施する場合は、活動項目を選択した上で、毎年度実施するとともに、広報活動・農村関係人口の拡大を毎年度実施する。
	5 3 鳥獣被害防止対策及び環境改善活動の強化	
	5 4 地域住民による直営施工	
	5 5 防災・減災力の強化	
	5 6 農村環境保全活動の幅広い展開	
	5 7 やすらぎ・福祉及び教育機能の活用	
	5 8 農村文化の伝承を通じた農村コミュニティの強化	
	5 8－2 広域活動組織における活動支援班による活動の実施	
	5 8－3 水管理を通じた環境負荷低減活動の強化	
	5 9 都道府県、市町村が特に認める活動	
	6 0 広報活動・農村関係人口の拡大	

第2 活動の説明

1 資源向上支払（地域資源の質的向上を図る共同活動）

（1）施設の軽微な補修

1）機能診断・計画策定

ア 機能診断

【農用地に関する活動内容】

2 4 農用地の機能診断

□施設の機能診断

- ・活動計画書に位置付けたすべての施設の劣化状況等を早期に発見し、「実践活動」に位置付けた予防保全活動を適期に実施できるように畦畔、農用地法面、鳥獣害防護柵、防風ネット、農用地進入路等の状況確認を行うこと。

□診断結果の記録管理

- ・状況確認の結果を経年的に記録管理すること。

【水路（開水路、パイプライン）に関する活動内容】

2 5 水路の機能診断

□施設の機能診断

- ・活動計画書に位置付けたすべての施設の劣化状況等を早期に発見し、「実践活動」に位置付けた予防保全活動を適期に実施できるように施設の状況確認（はらみの発生状況、目地部分の劣化状況、表面の劣化状況、沈下状況、側壁背面の侵食状況、藻等の発生状況、調整施設の遮光施設の状況、法面の侵食の発生状況、破損箇所の把握等）を行うこと。

- ・活動計画書に位置付けたすべての施設の劣化状況等を早期に発見し、「実践活動」に位置付けた予防保全活動を適期に実施できるように施設の状況確認（給水栓ボックスの基礎部の状況、破損箇所の把握、調整施設の遮光施設の状況等）を行うこと。

□診断結果の記録管理

- ・状況確認の結果を経年的に記録管理すること。

【農道に関する活動内容】

2.6 農道の機能診断

□施設の機能診断

- ・活動計画書に位置付けたすべての施設の劣化状況等を早期に発見し、「実践活動」に位置付けた予防保全活動を適期に実施できるように施設の状況確認（側溝の目地部分の劣化状況、側溝の劣化状況、側溝背面の劣化状況、路肩・法面の侵食状況、破損箇所の把握等）を行うこと。

□診断結果の記録管理

- ・状況確認の結果を経年的に記録管理すること。

【ため池（管理道路含む）に関する活動内容】

2.7 ため池の機能診断

□施設の機能診断

- ・活動計画書に位置付けたすべての施設の劣化状況等を早期に発見し、「実践活動」に位置付けた予防保全活動を適期に実施できるように施設の状況確認（遮水シートの劣化状況、目地部分の劣化状況、コンクリート構造物の表面劣化状況、堤体部の侵食状況、遮光施設の状況、破損箇所の把握等）を行うこと。

□診断結果の記録管理

- ・状況確認の結果を経年的に記録管理すること。

イ 計画策定

2.8 年度活動計画の策定

- ・機能診断結果も踏まえて、実践活動の当該年度の活動計画を策定すること。

2) 研修（機能診断・補修技術等の研修）

2.9 機能診断・補修技術等に関する研修

☐対象組織による自主的な機能診断及び簡単な補修に関する研修

- ・対象組織による自主的な機能診断及び簡単な補修が行えるように、技術研修の実施等の対象組織の技術向上対策を行うこと。

☐老朽化が進む施設の長寿命化のための補修、更新等に関する研修

- ・対象組織による施設の長寿命化を図るための補修、更新等が行えるように、技術研修の実施等の対象組織の技術向上対策を行うこと。

☐農業用水の保全、農地の保全や地域環境の保全に資する新たな施設の設置等に関する研修

- ・対象組織による農業用水の保全、農地の保全や地域環境の保全に資する新たな施設の設置等が行えるように、技術研修の実施等の対象組織の技術向上対策を行うこと。

3) 実践活動

ア 農用地に関する活動内容

3 0 農用地の軽微な補修等

①畦畔・農用地法面等

☐農用地法面の初期補修

- ・降雨等による影響等で農用地法面等に侵食や湧水が発見された場合、補修、補強等の対策を行うこと。

☐畦畔の再構築

- ・形状の劣化、沈下、破損等がみられる畦畔（土、コンクリート問わず）の幅や高さ等の形状回復等の対策を行うこと。

☐鳥獣害防護用のわなの補修・設置

- ・鳥獣害防止のためのわなの補修や設置等を行うこと。
ただし、わなの設置については狩猟免許や捕獲許可が必要であるため注意すること。
なお、鳥獣に関する他事業等と重複しないこと。

②施設

☐暗渠施設の清掃

- ・暗渠施設への高圧水による清掃等を実施し、機能の回復等の対策を行うこと。

☐農用地の除れき

- ・生産性の確保による遊休農地発生の防止のために、石れき等の除去を行うこと。

☐鳥獣害防護柵の補修・設置

- ・遊休農地再発防止を目的とした、鳥獣被害防止のための防護柵の補修や設置等を行うこと。

☐防風ネットの補修・設置

- ・防風ネットの補修を行うこと。又は新たに防風ネットを設置すること。

□きめ細やかな雑草対策

- ・畦畔又は農用地法面の形状確保や雑草繁茂・病虫害発生の抑制のために、「カバープランツ又はハーブの植栽・管理」、「抑草ネット等の設置」、又は、「薬剤による地上部の除草」を行うこと。なお、植栽等に当たっては、必要に応じて有識者の指導・助言を得るなど、地域の生態系への影響に留意することとし、抑草ネット等については、機能診断結果に基づき、必要に応じた適正な管理を行うこと。

□農用地進入路の補修・再構築

- ・農道と農地を継ぐ進入路の補修・修繕を行うこと。また、使用する農業用機械等に応じて農用地進入路を再構築すること。

□牧柵等の補修・設置

- ・牧柵等の補修を行うこと。又は新たに牧柵等を設置すること。

□固定式散水施設の補修

- ・老朽化等により散水機能に支障が生じている固定式散水施設の補修を行うこと。

イ 水路に関する活動内容

3 1 水路の軽微な補修等

①水路

□水路側壁のはらみ修正

- ・柵渠等により整備された水路の側壁部にはらみが発見された場合、はらみ修正等の対策を行うこと。

□目地詰め

- ・U字溝等のコンクリート構造物の目地部に劣化が発見された場合、目地部に充填剤を詰める等の対策を行うこと。また、目地部分の草抜きも行うこと。

□表面劣化に対するコーティング等

- ・コンクリート構造物等の表面が劣化していた場合、表面部へのコーティング剤の塗布等の対策を行うこと。

□不同沈下に対する早期対応

- ・水路敷きが一部不同沈下していた場合、当該部分の補修等の対策を行うこと。

□側壁の裏込材の充填、水路耕畔の補修

- ・柵渠等の水路側壁の背面に土壌侵食による空洞等が発見された場合、当該部分への裏込め材の充填、水路耕畔を補強する等の対策を行うこと。

□水路に付着した藻等の除去

- ・除塵機の破損や通水障害を解消するため、除塵機や水路内に繁茂した藻や水生植物を除去する等の対策を行うこと。

□水路法面の初期補修

- ・法面に侵食や漏水が発見された場合、補修・補強等の対策を行うこと。

□破損施設の補修

- ・破損箇所や老朽化した箇所の補修等の対策を行うこと。

□きめ細やかな雑草対策

- ・水路法面の形状確保や雑草繁茂・病虫害発生の抑制のために、芝等の「カバープランツの植栽・管理」や「抑草ネット等の設置」、又は、「薬剤による地上部の除草」を行うこと。なお、植栽等にあたっては、必要に応じて有識者の指導・助言を得るなど、地域の生態系への影響に留意することとし、抑草ネット等については、機能診断結果に基づき、必要に応じた適正な管理を行うこと。

□パイプ内の清掃

- ・パイプライン及び排泥工等の附帯施設内に堆積した土砂やゴミ等を除去するために、高圧水による除去活動等の対策を行うこと。

□パイプラインの破損施設の補修

- ・パイプラインの破損箇所や老朽化した箇所の補修等の対策を行うこと。

②附帯施設

□給水栓ボックス基礎部の補強

- ・特に洗掘を受けやすい給水栓ボックス付近の洗掘が判明した場合、補修等の対策を行うこと。

□破損施設の補修

- ・破損箇所や老朽化した箇所の補修等の対策を行うこと。

□給水栓に対する凍結防止対策

- ・特に冬期間を中心とした低温期及び夜間の低温を原因とするパイプ等の破裂防止のために給水栓ボックスに保温材を投入するなどの保温対策を行うこと。

□空気弁等への腐食防止剤の塗布等

- ・空気弁、バルブ、制御施設等のパイプライン附帯施設の機能を継続的に発揮させるために、腐食防止剤の塗布、清掃等のきめ細やかな保全管理を行うこと。

□遮光施設の補修等

- ・アオコによる通水障害やかんがい施設の損傷等を防止するために設置している遮光施設の補修や設置を行うこと。

□安全施設の補修・設置

- ・転落事故等を防止するために設置している安全施設の破損・老朽箇所の補修を行うこと。また、必要に応じて、蓋・柵・警告板等を設置し地域の安全を確保すること。

ウ 農道に関する活動内容

3 2 農道の軽微な補修等

①農道

□路肩、法面の初期補修

- ・降雨による影響等で路肩・法面に侵食が発見された場合、補修、補強等の対策を行うこと。

□軌道等の運搬施設の維持補修

- ・軌道等の運搬施設に劣化等による障害が発生している場合、維持、補修等の対策を行うこと。

□破損施設の補修

- ・破損箇所や老朽化した箇所の補修、簡易な補強等の対策を行うこと。

□きめ細やかな雑草対策

- ・路肩又は法面の形状確保や雑草繁茂・病害虫発生抑制のために、芝等の「カバープランツの植栽・管理」や「抑草ネット等の設置」、又は、「薬剤による地上部の除草」を行うこと。なお、植栽等に当たっては、必要に応じて有識者の指導・助言を得るなど、地域の生態系への影響に留意することとし、抑草ネット等については、機能診断結果に基づき、必要に応じた適正な管理を行うこと。

②附帯施設

□側溝の目地詰め

- ・U字溝などのコンクリート構造物の目地部に劣化が発見された場合、目地部に充填剤を詰める等の対策を行うこと。また、目地部分の草抜きも行うこと。

□側溝の不同沈下への早期対応

- ・側溝が一部不同沈下していた場合、当該部分の補修等の対策を行うこと。

□側溝の裏込材の充填

- ・側溝側壁の背面で土壌侵食による空洞等が発見された場合、当該部分に裏込め材の充填等の対策を行うこと。

□破損施設の補修

- ・破損箇所や老朽化した箇所の補修、簡易な補強等の対策を行うこと。

□安全施設の補修・設置

- ・農業用施設周りの転落防止柵等、安全施設について劣化等による障害が発生している場合、補修・補強等の対策を行うこと。また、必要に応じて、安全施設を設置し地域の安全を確保すること。なお、ガードレールの新設は対象外とする。

エ ため池に関する活動内容

3 3 ため池の軽微な補修等

①堤体

□遮水シートの補修

- ・遮水シートに破損がみられた場合、部分的に補修する等の対策を行うこと。

□コンクリート構造物の目地詰め

- ・コンクリート構造物の目地部に劣化が発見された場合、目地部に充填剤を詰める等の対策を行うこと。また、目地部分の草抜きも行うこと。

□コンクリート構造物の表面劣化への対応

- ・コンクリート構造物等の表面に劣化が発見された場合、表面部にコーティング剤を塗布する等の対策を行うこと。

□堤体侵食の早期補修

- ・堤体の表面に侵食がみられた場合、補修等の対策を行うこと。

□破損施設の補修

- ・破損箇所や老朽化した箇所の補修等の対策を行うこと。

□きめ細やかな雑草対策

- ・ため池法面の形状確保や雑草繁茂・病虫害発生の抑制のために、芝等の「カバープランツの植栽・管理」や「抑草ネット等の設置」、又は、「薬剤による地上部の除草」を行うこと。なお、植栽等に当たっては、必要に応じて有識者の指導・助言を得るなど、地域の生態系への影響に留意することとし、抑草ネット等については、機能診断結果に基づき、必要に応じた適正な管理を行うこと。

②附帯施設

□破損施設の補修

- ・破損箇所や老朽化した箇所の補修等の対策を行うこと。

□遮光施設の補修等

- ・アオコによる通水障害やかんがい施設の損傷等を防止するために設置している遮光施設の補修や設置を行うこと。

□安全施設の補修・設置

- ・農業用施設周りの転落防止柵等、安全施設について劣化等による障害が発生している場合、補修・補強等の対策を行うこと。また、必要に応じて、安全施設を設置し地域の安全を確保すること。なお、ガードレールの新設は対象外とする。

(2) 農村環境保全活動

1) 計画策定

ア 生態系保全

3 4 生物多様性保全計画の策定

- ・地域における生物多様性保全に向けて、基本方針、保全する生物、保全方法、活動内容等を示した計画を策定すること。

イ 水質保全

3 5 水質保全計画、農地保全計画の策定

□水質保全計画の策定

- ・地域における水質保全に向けて、基本方針、保全方法、活動内容等を示した計画を策定すること。

□農地の保全に係る計画の策定

- ・地域における農地からの濁水や土砂流出の防止に向けて、基本方針、活動内容等を示した計画を策定すること。

ウ 景観形成・生活環境保全

3 6 景観形成計画、生活環境保全計画の策定

- ・地域における景観形成・生活環境保全に向けて、基本方針、目標達成方法、活動内容等を示した計画を策定すること。

エ 水田貯留機能増進・地下水かん養

3 7 水田貯留機能増進計画、地下水かん養活動計画の策定

□水田貯留機能増進に係る地域計画の策定

- ・地域における水田等を利用した水田貯留機能増進に向けて、基本方針、活動内容等を示した計画を策定すること。

□地下水かん養に係る地域計画の策定

- ・地域における水田等を利用した地下水かん養に向けて、基本方針、活動内容等を示した計画を策定すること。

オ 資源循環

3 8 資源循環計画の策定

- ・地域における資源循環のために、基本方針、循環する資源、循環方法、活動内容等を示した計画を策定すること。

2) 実践活動

ア 生態系保全

3 9 生物の生息状況の把握

- ・地域における生物多様性保全を推進するために、保全する生物を中心とした生物等の調査を行うこと。地域に生息・生育する生物、又は保全する生物の分布図を、地域情報が把握できる地形図を活用して作成すること。
- ・地域において保全する生物の動向を把握するために、モニタリング調査を行うとともに、その記録管理を行うこと。

4 0 外来種の駆除

- ・地域における生物多様性保全のため、外来の魚類等の生物を駆除する活動を行うこと。

4 1 その他（生態系保全）

□生物多様性保全に配慮した施設の適正管理

- ・地域において保全する生物（主に魚類）の生息環境を創出するワンドの設置、石積み・多孔コンクリートによる護岸等を行った水路や多自然型に復元した水路等について、ゴミの除去等により適正な維持管理を行うこと。又は、新たに魚巢ブロック等を設置し、適正な維持管理を行うこと。
- ・地域における魚類の生息環境を改善する魚道や段差解消等を行った水路等について、ゴミの除去等により適正な維持管理を行うこと。又は、新たに魚道等を設置し、適正な維持管理を行うこと。
- ・地域における魚類等の生息環境を改善するために、水路への堰板の設置等を通じて、流速、水深の管理を行うこと。又は、保全池等の水位管理を行うこと。
- ・動物等の生息環境改善のために、植栽等によって確保した連続性のある緑地帯や動物等が道路や水路を横断しやすくするような施設について、適正な維持管理を行うこと。又は、新たに道路や水路を横断しやすくするような施設を設置し、適正な維持管理を行うこと。

□水田を活用した生息環境の提供

- ・遊休農地等をビオトープとして位置付けるとともに、畦畔の維持や水管理等による適正な維持管理を行うこと。
- ・鳥類の餌場、ねぐらの確保又は両生類や昆虫類の産卵等のために、作物の収穫後の水田を湛水状態にする活動を行うこと。
- ・渡り鳥への保護活動として、遊休農地等を利用して鳥の餌となる植物の栽培等を行うこと。
- ・魚類、両生類等の生息場、待避場を確保するため、ほ場内に小水路等を設置し、適正な維持管理を行うこと。

□生物の生活史を考慮した適正管理

- ・地域において保全する生物の生息環境を維持保全するために、当該生物の生活史に配慮した草刈りを行うこと。なお、その際は水路等内の刈草等とともに捕獲された生物を水路等に戻すこと。
- ・地域において保全する生物の生息環境を維持保全するために、当該生物の生活史に配慮した水路の泥上げを行うこと。なお、その際は土砂とともにすくい上げられた生物を水路等に戻すこと。
- ・地域において保全する生物の生息環境を維持保全するために、農用地から林地等までを移動範囲とする生物のネットワークを考慮して、農用地・林地等の適正な維持管理を行うこと。

□放流・植栽を通じた在来生物の育成

- ・生物多様性保全の観点から、地域内に以前から生息していたが、近年減少していると感じられる生物について、放流・植栽したり、生息環境を継続的に確保するための適正な維持管理を行うこと。
- ・水路法面や畦畔等に植栽する場合、通常地域内に生息しない植物を植栽するのではなく、通常地域内に生息する在来植物を植栽するとともに、定期的な草刈り等による適正な維持管理を行うこと。
- ・基礎活動としてため池の水抜きを行った後、外来種以外の魚類等の生息が確認された場合に、元のため池に戻すか、連続性のある同一水系のため池や河川等に移植すること。
- ・デコイ（鳥の模型）や遮光壁の設置・管理や鳴き声を発生させる等の、鳥類の呼び寄せに寄与する活動を行うこと。
- ・鳥類の生息環境の改善のために、巣箱を設置・管理すること。

□希少種の監視

- ・地域における生物多様性保全のために、水路、ため池等に希少種が生息・生育する場合、乱獲等を防ぐための定期的な監視を行うこと。

イ 水質保全

4 2 水質モニタリングの実施・記録管理

- ・水質の動向を把握するために、水質モニタリング調査を行うとともに、その記録管理を行うこと。

4 3 畑からの土砂流出対策

□排水路沿いの林地帯等の適正管理

- ・水質保全に向けて、畑からの濁水等の流出抑制を図るために排水路沿いに設置した林地帯等について、下草刈り等による適正な維持管理を行うこと。又は、新たに林地帯等の設置を行い、適正な維持管理を行うこと。

□沈砂池の適正管理

- ・水質保全に向けて、土砂堆積機能の効果的発揮や浮遊物の流出防止を図るため、沈砂池や土砂溜柵の泥上げやその施設への植栽を行い、適正な管理を行うこと。又は、新たに沈砂池の設置を行い、適正な維持管理を行うこと。

□土壌流出防止のためのグリーンベルト等の適正管理

- ・水質保全に向けて、農用地からの土壌流出を抑制するために設置したグリーンベルト（緑地帯）等（畦畔、木柵等含む）について、適正な維持管理を行うこと。又は、新たにグリーンベルト（緑地帯）等（畦畔、木柵等含む）を設置し、適正な維持管理を行うこと。なお、植栽等にあたっては、必要に応じて有識者の指導・助言を得るなど、地域の生態系への影響に留意すること。

- ・水質保全に向けて、作物収穫後に通常裸地期間となる場合、土壌流出を抑制するために営農目的以外で流出防止対策（マルチ、敷きわら、植物の植栽等）を行い、適正な維持管理を行うこと。

4.4 その他（水質保全）

□水質保全を考慮した施設の適正管理

- ・水質保全のために、排水路やため池内に植栽したヨシ等の植物について、適正な時期に刈り取りを行い、排水路やため池外に搬出し処分する等の適正な維持管理を行うこと。又は、新たにヨシ等を植栽し、適正な維持管理を行うこと。なお、植栽等にあたっては、必要に応じて有識者の指導・助言を得るなど、地域の生態系への影響に留意すること。
- ・水質保全のために、排水路やため池内に設置した木炭等の接触材を利用した浄化施設等の水質改善施設について、接触材を定期的に更新する等の適正な維持管理を行うこと。又は、新たに水質改善施設を設置し、適正な維持管理を行うこと。
- ・水質保全のために、排水路に設置した浄化池について、泥上げ、清掃等の適正な維持管理を行うこと。又は、新たに浄化池を設置して適正な維持管理を行うこと。

□水田からの排水（濁水）管理

- ・水田からの濁水流出防止を図るために、濁水がほ場内に滞留して浮遊（懸濁）物質の沈殿を図られるように、排水止水板を設置し、その適正な維持管理を行うこと。
- ・水田からの濁水流出防止を図るために濁水をほ場内に滞留させ浮遊（懸濁）物質の沈殿を図られるように、用水の節水管理など適切な維持管理を行うこと。

この取り組みは毎年度、排水（濁水）管理の取組を実施し、事業実施期間最終年度、または再認定を受ける場合は実施から5年後の遅い時期に資源向上活動（共同）の交付農用地の面積（田）の1/2以上で実施すること。

□循環かんがいの実施

- ・地域内外の水質を保全するため、地域内での循環かんがいを実施すること。

□非かんがい期における通水

- ・水質改善や悪臭発生防止のために、非かんがい期においてもゲート等の適正な管理等によって水路に通水すること。

□管理作業の省力化による水資源の保全

- ・管理作業を省力化し、水資源の逼迫や下流閉鎖水域の水質悪化を改善するため、末端ゲート・バルブ又は給水栓・取水口の自動化等を行うこと。

ウ 景観形成・生活環境保全

4.5 植栽等の景観形成活動

□景観形成のための施設への植栽等

- ・農用地（畦畔、防風林含む）、水路、ため池、農道（路肩含む）、農村公園、親水広場、伝統的農業施設、農産物加工施設等を活用して農村景観を良くするために、花壇、

植生土のうの設置や景観植物の植栽を行うとともに、ゴミの除去等による適正な維持管理を行うこと。なお、植栽等に当たっては、必要に応じて有識者の指導・助言を得るなど、地域の生態系への影響に留意すること。

- ・景観形成のために、水路等に水生植物（花き等）を植栽するとともに、補植等による適正な維持管理を行うこと。なお、植栽等に当たっては、必要に応じて有識者の指導・助言を得るなど、地域の生態系への影響に留意すること。

- ・景観形成のために、農道の歩道部分を木材チップで覆う等の活動を行うこと。

□農用地等を活用した景観形成活動

【農用地等を活用した景観形成活動】

- ・農用地等の資源が活用されて形成される良好な景観を維持、改善するため、農用地周辺の屋敷林の適正管理、廃屋（使用されなくなった農具小屋等）の撤去又は周辺景観に配慮した利活用、複数の施設の壁の同系色化等の活動を実施し、景観形成を図ること。

【農用地等を活用した景観に配慮した作付け】

- ・農用地への作物の作付け及び輪作を行う際に、農用地への景観作物の作付けや景観に配慮した輪作を行うこと。

- ・農村の景観を良好にするために、遊休農地等に景観植物等の植栽を行うこと。なお、植栽等に当たっては、必要に応じて有識者の指導・助言を得るなど、地域の生態系への影響に留意すること。

4 6 施設等の定期的な巡回点検・清掃

- ・地域内の景観保全及び生活環境保全のために、ゴミの不法投棄防止のための巡回点検を行うこと。

- ・地域内の景観保全及び生活環境保全のために、農用地、開水路、パイプライン附帯施設、ため池、農道等の施設周辺のゴミを定期的に除去すること。

- ・地域の重要な通行の場となっている農道の除雪を行うこと。

- ・畦畔法面の管理作業を省力化し、管理の粗放化による病虫害の増加、景観の悪化等を防止するため、法面への小段（犬走り）の設置を行うこと。

4 7 その他（景観形成・生活環境保全）

□農業用水の地域用水としての利用・管理

- ・農業用水を生活用水として利用するとともに、適正な利用が可能となるように利用区間の水路底やその周辺部の清掃及び適正な維持管理を行うこと。

- ・農業用水を防火用水として利用するとともに、適正な利用が可能となるように防火水槽の定期的な清掃、防火訓練への協力、水位確保のための堰板管理等を行うこと。

- ・農業用水を消流雪用に利用するとともに、その適正な利用が可能となるように降雪期前の点検、補修、及びその他期間にも適正な維持管理を行うこと。

- ・集落内にある水路を親水空間として利活用し、定期的な清掃等により、適正な維持管理を行うこと。

- ・農村の水辺空間の景観形成を図るため、非かんがい期においても、ため池に貯水すること。

□伝統的施設や農法の保全・実施

- ・はさ掛け等の伝統農法の実践を通じて農村特有の景観形成を図ること。
- ・地域に賦存する歴史的な価値のある農業施設の保全を行うこと。
- ・景観形成のために、機械作業が不可能な棚田等の石垣法面の草刈りや補修等を適正に行うこと。

□農用地からの風塵の防止活動

- ・農用地周辺に立地する住宅等に対して、農用地からの風塵による影響を小さくするため、主として営農目的以外で農用地への植物の植栽を行い、適正な維持管理を行う等の活動を行うこと。又は、風塵防止のための並木を整備し、枝打ち等により適正な維持管理を行うこと。なお、植栽等に当たっては、必要に応じて有識者の指導・助言を得るなど、地域の生態系への影響に留意すること。

エ 水田貯留機能増進・地下水かん養

4 8 水田の貯留機能向上活動

- ・大雨時の水田からの排水を調節するため、水田の落水口に排水調整板の設置等を行うこと。
- ・大雨時の水田での貯留効果を向上させるため、畦畔の嵩上げ、補修、補強等を行うこと。ただし、前述の排水調節の活動を行う場合に限る。
- ・大雨時に、水田への湛水による一時貯留やため池等の空容量を活用し、貯留機能を向上させるため、ゲート等の操作や排水ポンプの稼働を行うこと。

4 9 水田の地下水かん養機能向上活動、水源かん養林の保全

□水田の地下水かん養機能向上活動

- ・水田の持つ地下水かん養機能を発揮させるため、かんがい・防除等の営農以外の目的で水田への水張りを行うこと。又は、新たにポンプを設置し、計画に基づいた水田への湛水を行うこと。
- ・水田の持つ地下水かん養機能を効果的に発揮させるため、収穫後に耕起を行うこと。

□水源かん養林の保全

- ・地下水かん養の便益を受ける地域が上流域の地域と連携を取りながら、水源かん養林を対象にした保全活動を行うこと。

オ 資源循環

5 0 地域資源の活用・資源循環活動

【有機性物質のたい肥化】

- ・資源の循環を推進するために、家庭からの生ゴミ等を収集し、たい肥化を図ること。
- ・資源の循環を推進するために、農業集落排水施設から発生する汚泥を収集し、たい肥化を図ること。

【間伐材等を利用した防護柵等の適正管理】

- ・地域及び周辺で産出される間伐材を利用して設置した防護柵について、破損があった場合などには早急な対応を行うなど、適正な維持管理を行うこと。又は、新たに間伐材を利用した防護柵を設置し、維持管理すること。

【農業用水の反復利用】

- ・地域において農業用水を有効活用するために、農業用水を反復して循環的な利用を行うこと。又は、新たに排水の再利用が可能となるポンプを設置し、計画に基づいた通水を行うこと。

【小水力発電施設の適正管理】

- ・地域内にある水路に設置した小水力発電施設について、継続的に発電が可能となるような適正な維持管理を行うこと。又は、新たに発電施設を設置し、維持管理すること。又は、小水力発電の導入に向けた実験活動を行うこと。

3) 啓発・普及

5.1 啓発・普及活動

①広報活動（パンフレット等の作成・頒布、看板設置等）、啓発活動（有識者の指導、勉強会等）に関する活動内容

□広報活動

- ・農村環境保全活動に対する地域住民等の理解を深めるために、パンフレット、機関誌等の作成・頒布、看板の設置、インターネットのホームページの開設・更新等の活動を行うこと。
- ・外来種の侵入防止や駆除に対する理解を醸成する活動を行うこと。

□啓発活動

- ・地域の農村環境保全のために、農村環境の各テーマに詳しい専門家の意見を伺う等、有識者の指導・助言を得ること。
- ・地域で保全する生物の種類を検討するためや、地域の水質保全計画・景観形成計画等を策定するため等に、集落等での寄合等の場を活用した勉強会等を行うこと。

②地域住民との交流活動、学校教育、行政機関等との連携に関する活動内容

□地域住民等との交流活動

- ・活動を契機として、農村環境保全活動に対する地域住民等の関心を高めるために、地域住民等との交流活動を行うこと。
- ・地域における生物多様性保全、景観形成等への認識を高めるために、地域内の水路等でみられる生物を対象とした観察会や地域の農村環境を再点検するためのウォーキング等を行うこと。
- ・生物多様性保全への意識向上のために設置した植物等の観察路や鳥の観察台につい

て、定期的なゴミ除去等による適正な維持管理を行うこと。又は、新たに観察路等を設置し、管理を行うこと。

- ・農村環境保全活動を実施する団体との意見交換会の開催等により、連携を図ること。
- ・地域における水田を利用した水田貯留機能増進・地下水かん養を推進していくために下流域と上流域との間での情報交換会の実施等により、連携を図ること。

□学校教育等との連携

- ・農村環境保全活動の啓発等のために、テーマに応じた出前講座や体験の場の提供等により、小中学校、高等学校、幼稚園等と連携を図ること。

□行政機関等との連携

- ・市町村が田園環境整備マスタープランを策定（変更）する際に、地域における生息生物、水質等の各テーマに関する情報を提供したり、内容について意見を述べること。また、地域での活動等をマスタープランに位置付ける等の連携強化を図ること。
- ・市町村等が作成する広報誌について、地域における生息生物・景観等についての情報を提供したり、地域の活動実績等を投稿すること。

③地域内の規制等の取り決めに関する活動内容

□地域内の規制等の取り決め

- ・農村環境保全活動を推進していくために、規制（ルール、約束事等）について、地域の合意の下で取り決めること。

（３）多面的機能の増進を図る活動

５２遊休農地の有効活用

- ・地域内外からの営農者の確保、地域住民による活用、企業と連携した特産物の作付等、遊休農地の有効活用のための活動を行うこと。

５３鳥獣被害防止対策及び環境改善活動の強化

- ・鳥獣被害防止のための対策施設の設置や鳥獣緩衝帯の整備・保全管理、農地周りの藪等の伐採、農地への侵入竹等の防止等、農地利用や地域環境の改善のための活動を行うこと。

５４地域住民による直営施工

- ・農業者・地域住民が直接参加した施設の補修や環境保全施設の設置、そのための技術習得等、地域住民が参加した直営施工による活動を行うこと。

５５防災・減災力の強化

- ・水田やため池の雨水貯留機能の活用、危険ため池の管理体制の整備・強化、災害時における応急体制の整備等、地域が一体となった防災・減災力の強化のための活動を行うこと。なお、危険ため池を共同活動の対象施設に位置付けている場合は、地域が一体となった防災・減災力の強化のための活動を積極的に行うこと。

5 6 農村環境保全活動の幅広い展開

・農地等の環境資源としての役割を活かした、景観の形成、生態系の保全・再生等、農村環境の良好な保全に向けた幅広い活動を行うこと（地域資源の質的向上を図る共同活動において取り組まれる農村環境保全活動に加えて、1 テーマを選択し農村環境保全活動を実施する対象組織及び（４）に定める活動を実施する対象組織が対象）。

□高度な保全活動 農地の保全 ため池利用による洪水調整

・下流域の農用地等の洪水被害や土砂流出被害の軽減を図るために、ため池又は沈砂池において浚渫すべき土砂量を事前に把握し、堤体等の安定性が損なわれないよう浚渫を行うこと。

5 7 やすらぎ・福祉及び教育機能の活用

・地域の医療・福祉施設等と連携した、農村環境保全活動への参画や農業体験等を通じた交流活動等、地域と医療・福祉施設等との連携を強化する活動を行うこと。

・地域内外の法人、専門家、教育機関等と連携した農村環境保全活動への参画や農業体験等を通じた交流活動等、地域資源の有するやすらぎや教育の場としての機能増進を図る活動を行うこと。

5 8 農村文化の伝承を通じた農村コミュニティの強化

・農村特有の景観や文化を形成してきた伝統的な農業技術、農業に由来する行事の継承等、文化の伝承を通じた農村コミュニティの強化に資する活動を行うこと。

5 8－2 広域活動組織における活動支援班による活動の実施

・広域活動組織において、集落をまたいで共同活動を支援することを目的として設置された活動支援班が活動を行うこと。

5 8－3 水管理を通じた環境負荷低減活動の強化

・多面的機能支払交付金実施要領別記１－２の第４の５に定める活動を行うこと。ただし、５割低減の取組と組み合わせての実施及び長期中干しにおける溝切りの実施の要件は適用しないものとする。

5 9 都道府県、市町村が特に認める活動

・都道府県が策定した地域活動指針において、地域の多様な実態を踏まえて追加した活動を行うこと。

6 0 広報活動・農村関係人口の拡大

・多面的機能支払交付金の活動に対する多様な主体の参画の促進や地域外からの呼び込みによる農村関係人口の拡大のために、パンフレット、機関誌等の作成・頒布、看板の設置、インターネットのホームページの開設・更新等の活動を行うこと。

（４）多面的機能の増進を図る活動における「農村環境保全活動の幅広い展開」の対象組織

（３）における「農村環境保全活動の幅広い展開」の対象組織は、地域資源の質的向上を図る共同活動において取り組まれる農村環境保全活動に加えて、当該農村環境保全活動とは異なる１テーマ以上

の農村環境保全活動を選択及び実施する対象組織、又は以下の高度な保全活動を実施する対象組織とする。

1) 農業用水の保全

ア循環かんがいによる水質保全

□循環かんがい施設の保全等

- ・循環かんがいにより地域の河川、湖沼等の水質改善を図るために、ポンプ分解点検清掃及び循環池のゴミ・土砂の除去を行うこと。また、定期的に水質調査を行い、周辺水域への負荷の軽減効果を確認すること。

イ浄化水路による水質保全

□水路への木炭等の設置

- ・農業用排水の水質改善を図るために、水路又はため池に水質浄化施設（木炭・れき・繊維布等の接触材、ヨシやガマ等の水質浄化植物等）を設置し、浄化施設の適正な維持管理（施設の清掃、植物の刈り取り）を行うこと。また、定期的に水質調査を行い、水質を確認すること。なお、植栽等にあたっては、必要に応じて有識者の指導・助言を得るなど、地域の生態系への影響に留意すること。

ウ地下水かん養

□冬期湛水等のためのポンプ設置

- ・農業用水源としての地域の地下水をかん養するために、ポンプを設置し、かんがい・防除等の営農目的以外で、計画に基づいた水田への湛水を行うこと。

エ持続的な水管理

□末端ゲート・バルブの自動化等

- ・管理の粗放化による溢水や水資源の逼迫等の地域の水管理に関する問題を改善するため、末端ゲート・バルブの自動化等を行うこと。

□給水栓・取水口の自動化等

- ・管理の粗放化による水資源の逼迫や閉鎖水域の水質悪化等の地域の水環境に関する問題を改善するため、給水栓・取水口の自動化等を行うこと。

2) 農地の保全

①土壌流出防止

□グリーンベルト等の設置

- ・農地等からの土壌流出を防止するために、農地周辺の水路沿い等にグリーンベルト（緑地帯）等（畦畔、木柵等含む）を設置し、適正な維持管理を行うこと。なお、植栽等にあたっては、必要に応じて有識者の指導・助言を得るなど、地域の生態系への影響に留意すること。

□防風林の設置

- ・活動計画書に位置付けた農地において、農地等からの砂塵飛散を防止するために、農地に隣接する防風林を設置し、枝払いや草刈り、除草等の適正な維持管理を行うこと。

②ため池利用による洪水調整

□ため池等の浚渫

- ・下流域の農用地等の洪水被害や土砂流出被害の軽減を図るために、ため池又は沈砂池において浚渫すべき土砂量を事前に把握し、堤体等の安定性が損なわれないよう浚渫を行うこと。

3) 地域環境の保全

①生物多様性の回復

□水田魚道の設置

- ・地域における保全対象となる生物（魚類）やそれを捕食する猛禽類等の生息環境の確保のために、対象となる魚類の遡上が可能となるよう水田と排水路の間等に適切な小規模魚道を設置し、適正な維持管理を行うこと。また、保全対象となる魚類等の生息状況について適切にモニタリング調査を行うこと。

□水路魚道の設置

- ・地域における対象となる生物（魚類）やそれを捕食する猛禽類等の生息環境の確保のために、対象となる魚類の遡上が可能となるよう水路に適切な魚道を設置し、適正な維持管理を行うこと。また、保全対象となる魚類等の生息状況について適切にモニタリング調査を行うこと。

□生息環境向上施設の設置

- ・地域における対象となる生物（魚類等）やそれを捕食する猛禽類等の生息環境の確保のために、水路、遊休農地等にワンド、ビオトープ、石積み・多孔コンクリート護岸等を設置し、適正な維持管理を行うこと。また、保全対象となる生物の生息状況について適切にモニタリング調査を行うこと。

□生物の移動経路の確保

- ・地域における保全対象となる生物の移動経路の確保のために、対象となる野生生物を特定した上で、道路や水路を横断しやすくするような施設（水路蓋、農道下の暗渠等）を設置し、適正な維持管理を行うこと。また、保全対象となる生物の移動経路が確保されていることについて適切にモニタリング調査を行うこと。

②水環境の回復

□水環境回復のための節水かんがいの導入

- ・排水の再利用等により、かんがい用水の取水量を節減し、地域の水環境の回復を図るために、排水の再利用が可能となるようポンプ等を設置し、計画に基づいた通水を行うこと。

③持続的な畦畔管理

□カバープランツ（地被植物）の設置

- ・管理の粗放化による病虫害の増加、法面浸食、景観の悪化等を防止するために、カバープランツを設置し、適正な維持管理を行うこと。なお、植栽等に当たっては、必要に

応じて有識者の指導・助言を得るなど、地域の生態系への影響に留意すること。

□法面への小段（犬走り）の設置

- ・管理の粗放化による病虫害の増加や、景観の悪化等を防止するために、法面へ小段を設置すること。

4) 専門家の指導

□専門家による技術的指導の実施

- ・対象活動に関する専門的な知見又は技能を有している者の指導や助言を受け対象活動を実施すること。また、指導内容及びその反映状況を記録すること。

(別紙3)

資源向上支払交付金（施設の長寿命化のための活動）に関する地域活動指針及び
同指針に基づき定める要件

第1 活動指針及び活動要件

1 資源向上活動（施設の長寿命化のための活動）

	活動区分		活動項目	活動要件
	施設区分			
実践活動	集落が管理する施設	水路	6 1 水路の補修	原則として工事1件当たり2百万円未満とする。 また、本要綱基本方針に基づき、対象組織が工事1件当たり2百万以上の活動を実施する場合、県または推進協議会からの技術的指導を受けること。
			6 2 水路の更新等	
		農道	6 3 農道の補修	
			6 4 農道の更新等	
		ため池	6 5 ため池の補修	
			6 6 ため池（附帯施設）の更新等	
	農地に係る施設	排水施設	1 0 1 暗渠排水の補修	
			1 0 2 暗渠排水の更新等	
		給水施設	1 0 3 給水施設の補修	
			1 0 4 給水施設の更新等	
		進入施設	1 0 5 進入路の補修	
			1 0 6 進入路の更新等	
		鳥獣害対策施設	1 0 7 鳥獣害対策施設の補修	
		客土	1 0 8 客土等	
		散水施設	1 0 9 固定式散水施設の補修	
			1 1 0 固定式散水施設の更新等	
		防災施設	農地・ため池	

第2 活動の説明

1 資源向上活動（施設の長寿命化のための活動）

(1) 実践活動

1) 水路（開水路、パイプライン）に関する対象活動

6 1 水路の補修

ア 水路本体

□水路の破損部分の補修

- ・ ひび割れや部分的な欠損、側壁の倒壊など、水路の一部区間が破損している場合、破

損状況に応じた工法による補修等の対策を行うこと。

□水路の老朽化部分の補修

- ・目地の劣化やコンクリート表面の磨耗、ひび割れ、はく離など、水路の一部区間が老朽化している場合、老朽化の状況に応じた工法による補修等の対策を行うこと。

□水路側壁の嵩上げ

- ・水路敷きの不同沈下により溢水するといった通水機能に支障が生じている場合、水路側壁を嵩上げすることによる対策を行うこと。

□U字フリューム等既設水路の再布設

- ・水路敷きの不同沈下により溢水や漏水、あるいは、土砂の堆積など、通水機能に支障が生じている場合、U字フリューム等既設水路の再布設による対策を行うこと。

イ 附帯施設

□集水枡、分水枡の補修

- ・集水枡、分水枡、水路に付帯する水田への取水施設の破損箇所や老朽化した箇所の補修や部分的更新等の対策を行うこと。

□ゲート、ポンプ、樋門の補修

- ・ゲート、ポンプ、樋門等の取水施設の破損箇所や老朽化した箇所の補修等の対策を行うこと。

□安全施設の補修

- ・水路内への侵入や転落を防止するフェンスなど安全施設の破損箇所や老朽化した箇所の補修等の対策を行うこと。

□空気弁・制水弁の補修

- ・パイプラインにおける老朽化した空気弁や制水弁の機能回復のための補修等の対策を行うこと。

□水路蓋の補修

- ・鋼製、コンクリート製の水路蓋が老朽化することで通水機能や、維持管理に支障が生じている場合、適切な補修工法による補修対策を行うこと。

6 2 水路の更新等

ア 水路本体

□素掘り水路からコンクリート水路への更新

- ・水路法面の崩壊や土砂の堆積等による通水機能の喪失や、清掃や泥上げなどの日常管理が困難な場合、コンクリート製の水路に更新するなどの対策を行うこと。

□水路の更新（一路線全体）

- ・老朽化や不同沈下等による通水機能への支障が路線全体を通じて生じている場合、水路の路線全体の更新による対策を行うこと。

□水路の更新（パイプライン化）

- ・老朽化や不同沈下等により通水機能に支障が生じている場合、支障が生じている水路

をパイプラインへ更新する。

□水路の更新（コルゲート水路等の布設）

- ・老朽化や不同沈下等により通水機能に支障が生じている場合、支障が生じている水路をコルゲート等の布設により更新する。

イ 附帯施設

□ゲート、ポンプ、樋門の更新

- ・老朽化等により機能に支障が生じているゲート、ポンプ、樋門等の取水施設の更新等の対策を行うこと。

□安全施設の設置

- ・水路内への転落防止や危険区域内への立入り防止等のために、新たに転落防止柵や水路蓋等の安全施設を設置することによる対策を行うこと。

□空気弁・制水弁の更新

- ・パイプラインにおける老朽化した空気弁や制水弁の更新を行うこと。

□水路蓋の更新

- ・水路の通水機能や、維持管理に支障が生じている場合、鋼製、コンクリート製の水路蓋を設置するなど適切な工法による対策を行うこと。

2) 農道に関する対象活動

6.3 農道の補修

ア 農道本体

□農道路肩、農道法面の補修

- ・農道路肩、農道法面に侵食や土砂の崩壊などが生じている場合、当該箇所状況に応じた工法による補修等の対策を行うこと。
- ・路面の凹凸、轍、ひび割れや部分的な欠損、ブロック積み、石積み等の通行機能を確保するための擁壁の損傷等、農道が損傷している場合、当該箇所状況に応じた工法による補修等の対策を行うこと。

□舗装の打換え（一部）

- ・老朽化等により農道の舗装路面の凹凸、轍、ひび割れや欠損等がみられた場合、その一部を撤去するなどした後、新たに舗装するなどの対策を行うこと。

イ 附帯施設

□農道側溝の補修

- ・ひび割れや部分的な欠損、側壁の倒壊といった破損や目地の劣化、コンクリート表面の磨耗、ひび割れ、はく離等といった老朽化により通水機能の低下が生じている場合、当該箇所状況に応じた工法による補修等の対策を行うこと。

6.4 農道の更新等

ア 農道本体

☐未舗装農道を舗装（砂利、コンクリート、アスファルト）

- ・未舗装農道において、路面の窪み、水たまり、ぬかるみ等により農道の維持管理等に支障が生じている場合、新たに路面を舗装することによる対策を行うこと。

イ 附帯施設

☐側溝蓋の設置

- ・農道において、側溝に蓋がないために車輛通行時に脱輪したり、農業機械の移動や作業等に伴って側溝を傷付けるなどの恐れがある場合、当該箇所新たな鋼製、コンクリート製の蓋を設置することにより対策を行うこと。

☐土側溝をコンクリート側溝に更新

- ・土側溝において、側溝法面の崩壊や土砂の堆積等による通水機能の喪失や、清掃や泥上げなどの日常管理が困難な場合、コンクリート製の側溝に更新するなどの対策を行うこと。

3) ため池に関する対象活動

6 5 ため池の補修

ア ため池本体

☐洗掘箇所の補修

- ・ため池において、堤体が洗掘されている場合、土のうを積んで補修する等の対策を行うこと。また、洗掘防止のためのブロック、シート等についても、機能保全のための補修を行うこと。
- ・張ブロック、護岸ブロック、シート等によるため池法面の浸食防止施設について、機能低下に対応した補修を行うこと。

☐漏水箇所の補修

- ・ため池において、老朽化等による堤体からの漏水等がみられた場合、遮水シートを設置する等の対策を行うこと。

イ 附帯施設

☐取水施設の補修

- ・ため池の竖樋、底樋、斜樋などの取水施設の破損や老朽化した箇所の補修等の対策を行うこと。

☐洪水吐の補修

- ・ため池の洪水吐の破損や老朽化した箇所の補修等の対策を行うこと。

☐安全施設の補修

- ・転落防止や危険区域内への立入り防止等のために設置されている安全施設の破損や老朽化した箇所の補修等の対策を行うこと。

6 6 ため池（附帯施設）の更新等

☐ゲート、バルブの更新

- ・老朽化等により機能に支障が生じているため池のゲート、バルブの更新等の対策を行うこと。

☐安全施設の設置

- ・ため池への転落防止や危険区域内への立入り防止等のために、新たに安全施設を設置することによる対策を行うこと。

4) 農地に係る対象活動（集落の合意の下に、集落が管理する水路・農道等の施設の長寿命化のための活動が図られたことを原則とし、対象活動とできる。）

ア 農地に係る施設

1 0 1 暗渠排水の補修

☐暗渠排水の補修

- ・排水機能が低下している暗渠排水施設の機能回復のための補修を行うこと。

1 0 2 暗渠排水の更新等

☐暗渠排水の更新等

- ・排水機能が低下している暗渠排水施設の更新を行うこと。

1 0 3 給水施設の補修

☐給水施設の補修

- ・給水機能が低下している給水施設及び取水口等の機能回復のための補修を行うこと。

1 0 4 給水施設の更新等

☐給水施設の更新等

- ・給水機能が低下している給水施設及び取水口等の更新を行うこと。

1 0 5 進入施設の補修

☐進入施設の補修

- ・進入機能が低下している進入路等の機能回復のための補修を行うこと。

1 0 6 進入施設の更新等

☐進入施設の更新等

- ・進入機能が低下している進入路等の更新を行うこと。

1 0 7 鳥獣害対策施設の補修

☐鳥獣害対策施設の補修

- ・カラス、イノシシ、サル、シカ、タヌキ等によって発生する農作物被害の未然防止のための鳥獣害対策施設の機能低下を改善するため補修を行うこと。

1 0 8 客土等

☐客土等

- ・作土不足等による遊休農地化を未然に防止するための客土等を行うこと。

1 0 9 固定式散水施設の補修

☐固定式散水施設の補修

- ・ 固定式散水施設等の破損箇所や老朽化した箇所の補修を行うこと。

1 1 0 固定式散水施設の更新等

- ・ 固定式散水施設等の破損箇所や老朽化した箇所の更新を行うこと。

イ 防災施設

1 1 1 農地の畦畔、ため池の法面や洪水吐等の更新等

- ・ 流域治水対策（田んぼダムやため池の事前放流）に取り組むために必要な農地の畦畔、ため池の法面や洪水吐等の補強、更新及び補修を行うこと。